

平成 17 年度
情報収集事業報告書
第 17 号

クォーターリー・レビュー

非鉄メジャーの
2005 年第 4 四半期動向

平成 18 年 6 月

独立行政法人 石油天然ガス・金属鉱物資源機構

はじめに

世界的な金属資源価格の高騰を受け、鉱物資源の大輸入国である我が国では原料資源調達が急務となっており、これら鉱物資源を安定的に確保するためには、その需給の状況・動向等を的確に把握することが不可欠である。

また、我が国の海外鉱山開発事業の円滑な推進を支援するために、マクロ的な需給動向のみならず、世界の鉱山・プロジェクト、探鉱開発の動向を常時注視し、企業活動の推移と傾向を分析調査することは、大変意義のあることと考える。

本報告書は、このような状況を踏まえ、国際金属研究会（銅、鉛・亜鉛、ニッケル）のマンスリーレポート等をベースにしたマクロな生産動向調査に加え、世界の非鉄メジャー企業のクォーターレポート、各国統計機関の発表等により経営・生産状況、探鉱開発等の動向をレビューし、「クォーター・レビュー」としてとりまとめたものである。

最後に、本報告書が関係各位の参考となれば幸いです。

平成 18 年 6 月

独立行政法人 石油天然ガス・金属鉱物資源機構
金属資源開発調査企画グループ

おことわり: 本報告書の内容は、必ずしも独立行政法人石油天然ガス・金属鉱物資源機構としての見解を示すものではありません。正確な情報をお届けするよう最大限の努力を行っておりますが、本報告書の内容に誤りのある可能性もあります。本報告書に基づきとられた行動の帰結につき、独立行政法人石油天然ガス・金属鉱物資源機構及び執筆者は何らの責任を負いかねます。

クォーター・レビュー

－非鉄メジャーの2005年第4四半期動向－

目次

はじめに

I. ベースメタルの国際市況と需給動向	1
1. 銅	1
2. 鉛	4
3. 亜鉛	6
4. ニッケル	9
II. 世界の主要生産者の動向	12
1. 銅企業の動向	12
2. 亜鉛企業の動向	14
3. ニッケル企業の動向	15
III. 今後の鉱山・製錬生産能力予測	16
IV. 主要企業の2005年第4四半期動向レビュー	17
1. CODELCO	17
2. Phelps Dodge	18
3. BHP Billiton (WMC 含む)	19
4. Grupo Mexico	21
5. Rio Tinto	22
6. Freeport-McMoRan Copper	23
7. KGHM	25
8. Falconbridge (Noranda を含む)	26
9. Antofagasta	27
10. Anglo American	28
11. Placer Dome	29
12. Inco	30
13. Newmont Mining	31
14. Teck Cominco	32

V. その他企業の動向、主要国の生産統計	33
1. 豪州企業	33
2. メキシコ(Peñoles)	42
3. インドネシア(Aneka Tambang)	43
4. 中国企業	
5. カザフスタン企業	
VI. 主要国、主要鉱山の生産統計	
1. 主要国の鉱産物生産統計	
(1)チリ	
(2)ペルー	
(3)ボリビア	
(4)メキシコ	
(5)中国	
(6)カザフスタン	
2. 主要鉱山の生産統計	
(1)Grasberg 鉱山	
(2)Molenci 鉱山	
(3)Antamina 鉱山	

I. ベースメタルの国際市況と需給動向

1. 銅

1. 銅のLME価格は、2005年前半は3,100～3,300\$で推移していたが、7月に入りLME在庫の記録的低水準や相次ぐ鉱山スト等が材料となり3,700\$台で推移した。その後も需給逼迫感から上昇基調に入り、10月には4,000\$を突破、年末に向けて、中国のショートポジション問題やインド製錬所の事故等の要因でさらに上昇。
2. 2005年10～12月の鉱山生産は前年同期比で12.8%増。地金生産は8.3%増。一方、消費は1.1%増。
3. 2005年第4四半期の世界の需給バランスは、前年同期の79千t供給不足から206千tの供給過剰に。

(1) 国際価格(1月～12月)

銅のLME価格は、2005年に入り、総じて需給バランスのタイト感、ドル安の進行、原油高、低水準の在庫レベルなどを材料に投機人気が衰えを見せない中で上昇傾向が続いている。2004年末は3,279.5\$/tであったが、ファンド資金の流入が加速し、2月末には15年ぶりに3,400\$台を突破。5月になってドル高騰により一時3,100\$台まで反落したものの、7月以降は、米国、チリ、ザンビアで鉱山・製錬所のストが相次いで発生したことで需給逼迫感が強まり、7月25日には3,715\$と史上最高値を記録。その後も乱高下を伴いながら上昇基調が継続し、10月6日には4,000\$を突破。11月には、中国国家物資備蓄局の備蓄銅放出、アサルコのスト終結などの下げ要因にもかかわらず、月初から史上最高値を連続更新し、年末に向けて、中国のショートポジションに対するロング筋の買い攻勢やインド・ビルラ製錬所の爆発事故等の要因で、さらに高騰を続け、年末には4,650\$まで上昇した。



銅地金価格と在庫の推移

出典：LME

(2) 需給(10~12月)

2005年10~12月の鉱山生産は前年同期比12.8%増の4,003.5千tであった。月別の鉱山生産を見ると、2005年10月は1280.1千t、11月は1,310.9千t、12月は1,412.5千tと増加を続けている。2005年10~12月の国別生産量は、最大生産国チリが前年同期比0.8%増、2位がインドネシアで5.4%増、3位ペルーが0.5%増、4位米国が15.5%減、5位豪州が10.2%増となった。2005年の鉱山生産は前年比2.8%増の14,910.2千tであった。2005年の国別生産量は、最大生産国チリが前年比1.7%減、3位ペルーが2.5%減、4位米国が1.4%減となる一方、2位インドネシアがGrasberg鉱山の事故からの回復により26.3%と大幅増、5位豪州が9.7%増となった。鉱山の設備稼働率は、2004年後半の90%超から2005年に入り80%後半に下落、その後下落傾向であったが、鉱山設備稼働率は2005年10月89.6%、11月94.5%、12月98.2%と回復している。

2005年10~12月の地金生産は前年同期比8.3%増の4,298.1千tであった。月別の地金生産は2005年10月1,398.0千t、11月1,420.0千t、12月1,474.6千tと増加を続けている。2005年10~12月の国別生産量(EW生産を含む、以下同様)は、2位中国が前年同期比34.5%と大幅増、3位日本4.3%増となる一方、最大生産国のチリが2.2%減、4位米国4.3%減、5位ロシア1.6%減となったが、全体では増加した。2005年の地金生産は前年同期比4.0%増の16,425.0千tであった。製錬所稼働率は、2004年12月以降伸び悩み80%程度で低迷、2005年10月80.6%、11月84.4%、12月84.5%、2006年1月80.4%と比較的低い水準で推移している。2005年の国別生産量は、2位中国(EW生産を含む、以下同様)が44.4%と大幅増、3位日本3.4%増となる一方、最大生産国のチリが1.7%減、4位米国6.9%減、5位ロシア0.6%減となったが、全体では増加した。

2005年10~12月の消費量は、最大消費国中国が前年同期比3.2%増、4位ドイツ2.9%増となる一方、その他主要国では2位米国2.1%減、3位日本0.3%減、5位韓国9.4%減となり、世界計では1.1%減の4087.1千tであった。世界の消費を月別に見ると、2005年10月の1,378.2千t、11月は1,384.3千t、12月は1,324.6千tと小幅に推移している。2005年の消費量は、最大消費国中国が前年比9.3%増となる一方、その他主要国では2位米国6.2%減、3位日本4.5%減、4位ドイツ0.3%増、5位韓国9.5%減となり、世界計では1.3%減の16,465.2千tであった。

2005年10~12月の需給バランスは、206千tの供給過剰となった。2005年は40千tの供給不足(季節調整後も同様)であった。7月までの供給不足の傾向が継続していたが、それ以降供給過剰の傾向が続いた。LMEの銅在庫量は、11月より増加に転じ、10月末(65.0千t)、11月末(72.6千t)、12月末(92.2千t)となっている。

銅の需給状況

(単位:千t、金属純分)

銅	2004		2005					対前年同期比(%) 第4四半期	前年比 (%)
	第4 四半期	2004年計	第1 四半期	第2 四半期	第3 四半期	第4 四半期	2005年計		
鉱山生産量	3,549	14,508	3,551	3,644	3,724	4,004	14,910	12.8	2.8
地金生産量	3,963	15,799	3,975	4,058	4,102	4,293	16,425	8.3	4.0
一次地金生産量	3,480	13,783	3,495	3,535	3,558	3,736	14,320	7.4	3.9
二次地金生産量	483	2,016	480	523	544	557	2,105	15.3	4.4
消費量	4,042	16,691	4,049	4,187	4,142	4,087	16,465	1.1	-1.4
需給バランス	-79	-892	-75	-129	-40	206	-40	-	-

出典: 国際銅研究会資料(2006年4月号)

(3) 今後の見通し

国際銅研究会によると、2005年の需給バランスは、2004年の供給不足902千tから減少し64千tの供給不足となった。2006年は、244千tの供給過剰が予想され、4年ぶりに需給バランスはプラスとなる。2005年11月の予測に比べ、生産量、消費量ともに下方修正がなされている。鉱石生産は銅価高騰を背景に、チリ2.5%増、米国9.3%増、ペルー2.6%増、豪州8.0%増と世界的に増加が見込まれているが、インドネシアではGrasberg鉱山での供給障害が懸念されるため18.7%と大幅減が見込まれる。地金生産も銅価高騰及び鉱石生産増加を受けチリ8.4%増、中国7.3%増、日本10.1%増、米国6.7%、と世界的に増加が見込まれている。

消費も中国で7.5%増、米国で1.8%増、EUが3.2%増、日本も1.9%の増と世界的に増加が見込まれている。

また、2007年についても55千tの供給過剰が予想される。

一方で、鉱山生産については、鉱山の新規プロジェクトは当面なく、短期的にも鉱山機械のタイヤなどの部品逼迫が生産能力の阻害要因とされており、生産が伸びないとの予想もある。

その他で鉱山生産に影響を与えると考えられる要因としては、ボリビアを初めとする南米資源国での左派勢力の台頭と資源国有化の動き、Grasberg鉱山での先住民の鉱山会社への抗議で見られた様な地域住民問題、CODELCOでのストライキ(1月)等の好況を受けた利益配分を巡る労使問題が挙げられる。

関係機関の予測に基づいた推定としては、銅価格は2005年の3,680US\$/tから2006年には5,466US\$/t、2007年には4,658US\$/tという推移になり、2006年の銅地金生産が17,888千t、消費が17,803千t、2007年の銅地金生産が18,784千t、消費が17,574千tと供給過剰の状態が継続する。

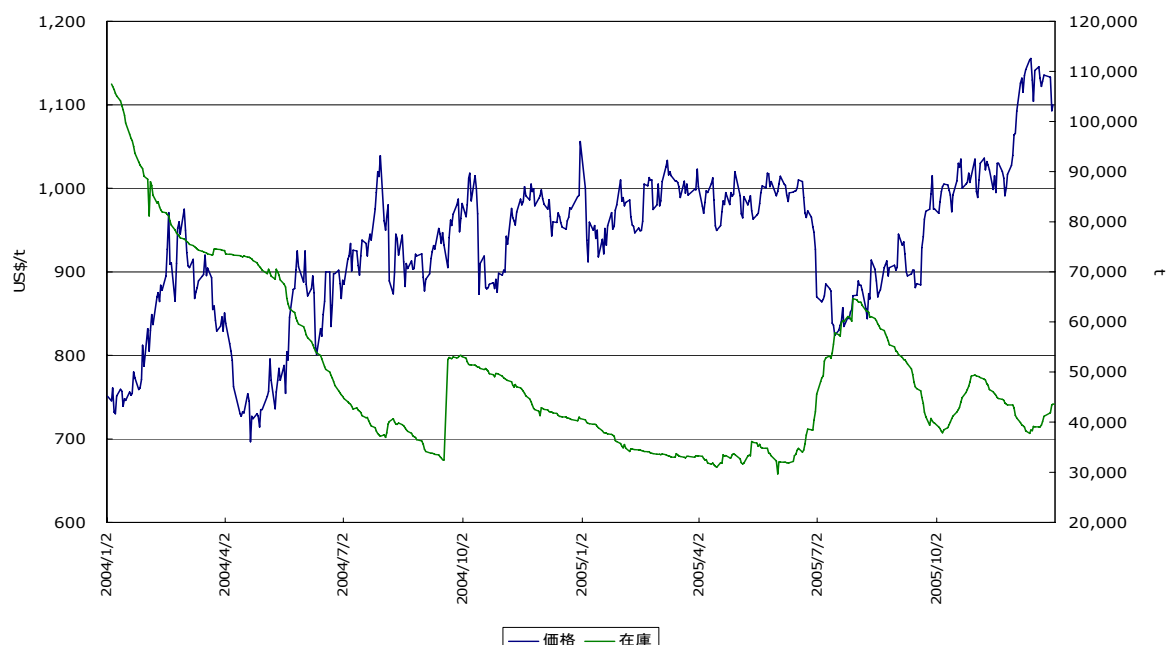
* これまで発行してきたクォーターレビューでは、LME 価格・在庫推移を印刷時点の直近まで掲載してきたが、需給データとの整合性の観点から、今後はLME 価格・在庫と需給データの期間をそろえて、当該四半期までとする。

2. 鉛

1. 鉛の国際価格は、6月に入りLME鉛在庫量が増加したことから下落し、7月に入って900\$を割り込んだが、その後、カナダ・トレイル製錬所のスト入りを契機として回復し、年末には1,100\$台まで高騰した。
2. 2005年10～12月の鉱石生産は、前年同期比3.3%増。地金生産は中国・英国を中心として好調なもの、同4.3%増。消費は中国が好調だが、同3.6%増。
3. 2005年第4四半期の世界の需給バランスは緩和。

(1) 国際価格(1月～12月)

鉛の国際価格は、中国等の需要の急拡大や米国のドル安・低金利政策に加えLME在庫が極端に減少していることから、2003年秋以降価格上昇が続き、2004年末はt当り1,056\$の年最高値を付け、1990年以来14年ぶりの高値を更新した。2005年に入り900\$～1,033\$の間で推移していたが、6月に入りLME鉛在庫が増加したことから価格が下落し、7月に入って900\$を割り込み、800\$台に突入した。7月15日には824\$となり2004年6月以来約1年ぶりの低水準となった。その後、カナダ・トレイル製錬所のスト入りを契機としてLME鉛価格は若干回復し、8月後半は900\$近辺で推移した。10月以降、メタル相場全般に対する投機資金の流入に加え、LME在庫の減少等の要因で1,000\$台に回復し、さらに年末に向けて1990年3月以来の1,100\$台で堅調推移した。



鉛地金価格と在庫の推移

出典:LME

(2) 需給(10～12月)

2005年10～12月の世界の鉛鉱山生産は863千tであり、前年同期比3.3%増となった。2位豪州が17.8%増、3位米国が6.1%増等、世界的に増加傾向であったが、最大生産国の中国で8.3%減が影響して、小幅な増加に止まった。2005年の鉛鉱山生産は前年比5.6%増の3,308千tであった、最大生産国中国が2.1%増、2位豪州が11.4%増、3位米国が昨年並、と小幅な動きとなった、

2005年10～12月の世界の鉛地金生産は2,001千tであり、前年同期比4.3%増となった。最大生産国の中国で10.6%増、2位米国1.5%増、3位ドイツ15.1%減により小幅な増加に止まった。2005年の鉛地金生産は8.8%増の7,565千tであった。最大生産国の中国が23.2%、4位英国が25.1%と大幅増だったものの、他諸国が伸び悩み全体として小幅の動きになった。

2005年10～12月の鉛消費量は、前年同期比3.6%増の2,001千tであった。1位中国が20.6%と大幅増、2位米国が4.5%増、3位ドイツが11.1%増、4位韓国が7.1%増等世界的増加傾向であった。

2005年の鉛消費量は、前年比5.5%増の2,008千tとなった。1位中国が27.0%増と大きく増加したのに対し2位米国は3.3%減、3位ドイツ0.3%減、4位韓国0.5%減、5位日本0.3%減と世界的に小幅な動きであった。2005年は中国が米国を抜いて世界一の消費国になった。

世界の10～12月の鉛需給バランスは、米国備蓄放出分も考慮すると1千tの供給不足となり、需給が緩和している。

LME 鉛在庫は、2005年12月末で43.6千tとなり、前月比2.2千t増であった。

鉛の需給状況

(単位:千t、金属純分)

鉛	2004		2005				2005年計	対前年同期比(%) 第4四半期	前年比(%)
	第4四半期	2004年計	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期			
鉱山生産量	835	3133	761	820	865	863	3,308	3.3	5.6
地金生産量	1,918	6955	1777	1882	1905	2001	7,565	4.3	8.8
米国備蓄放出	12	56	20	9	-5	6	29	-47.8	-47.7
消費量	1,937	7261	1809	1882	1961	2008	7,660	3.6	5.5
需給バランス	-8	-250	-13	8	-61	-1	-66	-	-

出典:国際鉛亜鉛研究会資料

(3) 今後の見通し

国際鉛亜鉛研究会によれば、鉛世界消費は、2006年に前年比2.4%上昇して、7,890千tになる予測である。これは主に初めて2,000千tを超えると予想される中国の消費が6.9%と従前の予想より伸びたためである。その他の国別消費は、欧州諸国と米国が2005年と同レベルと予測された一方、インド、メキシコ、台湾(中国)、タイ、およびトルコで増加と予測される。鉱山生産はウェスタンオーストラリア州のマゼラン鉱山の操業拡張が大きな影響を及ぼし、オーストラリアの鉛鉱山生産前年比10.5%増加と予測される。欧州では、アイルランド、ロシアおよびギリシアで増加の見込みである。さらに中国で6%増加の見込みであり、2006年の鉱山生産は世界全体で6.1%増加と予測される。2006年の鉛地金生産は世界全体で前年比3.8%増加し7,890千tに達すると予測される。中国の地金生産は一次生産、二次生産の最近の拡張により6.6%増加すると予測される。また、カザフスタ

ン、インドでも増加が見込まれる。中国からの西側諸国への鉛地金の総輸出は、490 千 t まで増加すると予測される。2006 年の需給バランスは、米国備蓄放出を含めて 67 千 t の供給過剰となる見込みである。

関係機関の予測に基づいた推定としては、鉛価格は 2005 年の 985US\$/t から 2006 年には 1,070US\$/t、2007 年には 875US\$/t という推移になり、2006 年の鉛地金生産が 7,883 千 t、消費が 7,882 千 t、2007 年の鉛地金生産が 8,275 千 t、消費が 8,185 千 t と需給がタイトな状態が継続する。

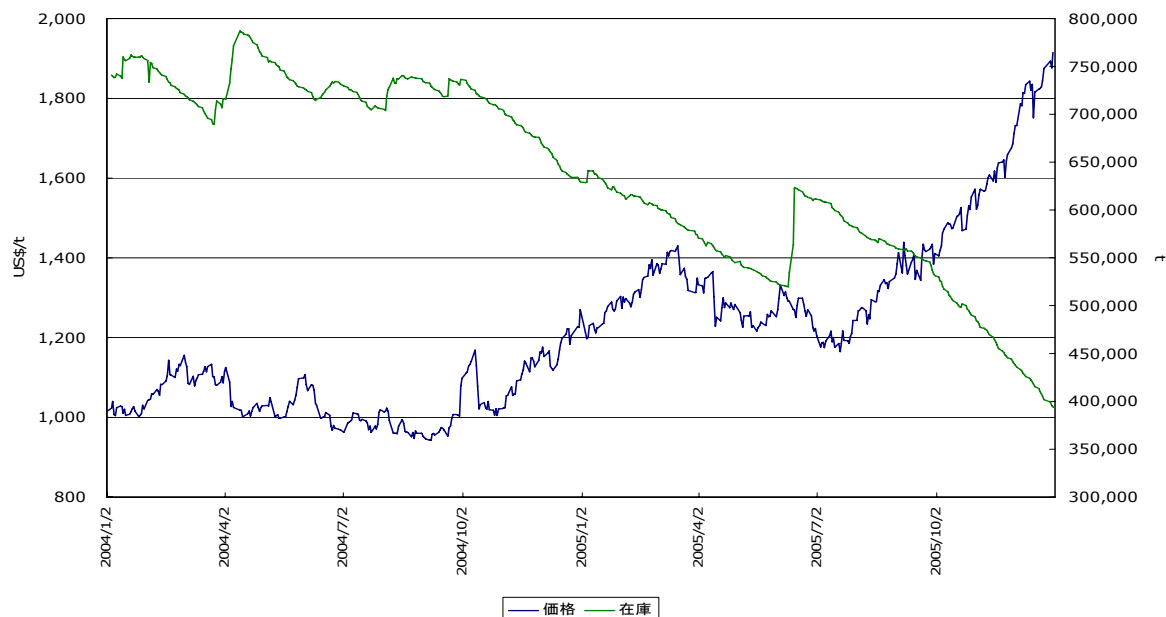
* これまで発行してきたクォーターレビューでは、LME 価格・在庫推移を印刷時点の直近まで掲載してきたが、需給データとの整合性の観点から、今後は LME 価格・在庫と需給データの期間をそろえて、当該四半期までとする。

3. 亜鉛

1. 亜鉛の国際価格は、3 月 16 日には t 当たり 1,430\$ まで上昇したが、投機ファンド資金の一部流出や LME 在庫の増加も影響して、7 月には一時 1,200\$ を割り込んだ。その後、カナダ・トレイル製錬所の長期スト等を材料として価格は上昇を続け、年末に向けて亜鉛需給のタイト化懸念、LME 在庫の減少等の要因で 1,900\$ 台まで高騰した。
2. 2005 年 10～12 月の鉱山生産は前年同期比 3.3% 減。地金生産は同 5.4% 減。消費は同 1.8% 増。最大消費国である中国で 7.5% 増にとどまったが、ドイツ、韓国を中心に需要が増加。
3. 2005 年第 4 四半期の世界の需給バランスは 184 千 t の供給不足で、不足量は大幅に拡大した。

(1) 国際価格 (1 月～12 月)

亜鉛の国際価格は、2005 年に入り、1 月に中国で電力不足による亜鉛製錬所減産、2 月 10 日には 2006 年 3 月で豊羽鉱山操業休止が伝えられたこともあり、LME 価格の上昇が続いた。3 月には、亜鉛生産量で世界第 2 位である豪州の Century 鉱山が、SAG (半自生粉砕) ミルの電気系統の障害により 11.5 日間操業を中断した影響もあり、3 月 16 日には LME 価格は t 当たり 1,430\$ まで上昇し、1997 年 9 月以来 7 年ぶりの高値を更新した。その後投機ファンド資金の一部流出があり、LME 在庫量の増加も影響して、7 月 4 日には 1,176\$ となり 2004 年 12 月以来 7 カ月ぶりに 1,200\$ を割り込んだ。その後、7 月 19 日から 10 月 5 日に及んだカナダ・トレイル製錬所のスト入りをきっかけに需給逼迫感が強まったことから価格は強気の回復を見せた。8 月末には、1,350\$ まで回復し、9 月から 10 月前半までは 1,400\$ 台を行き来する展開となり、10 月 17 日に 1,500\$ 台となり、11 月 10 日に 1,600\$ 台に到達。さらに、年末に向けて亜鉛需給のタイト化拡大の懸念、LME 在庫の急激な減少等の要因でさらに高騰し、1989 年 8 月以来の 1,900\$ 台まで上昇した。



亜鉛地金価格と在庫の推移

出典：LME

(2) 需給(10～12月)

2005年10～12月の世界の亜鉛鉱山生産は2,508千tであり、対前年同期比3.3%減となった。最大生産国の中国で13.5%減、2位豪州で1.2%減、5位カナダは22.0%の大幅減であった。2005年の鉱山生産は、5位カナダが前年同期比15.7%減、3位ペルー0.6%減となる一方、最大生産国の中国が3.9%増、2位豪州2.4%増、4位米国が1.1%増となり、世界合計では2.2%増の10,008千tとなった。

2005年10～12月の世界の亜鉛地金生産は、2,644千tで、対前年同期比5.4%減となった。最大生産国の中国が対前年同期比13.8%減、2位カナダが15.8%減等世界的な減少傾向であった。2005年の地金生産は、最大生産国の中国が前年同期比2.3%増だったが、2位カナダ10.2%減、3位韓国1.6%減、5位スペインが3.3%減となり、全体では0.4%減の10,319千tとなった。

2005年10～12月の亜鉛消費量は、2,836千tで前年同期比1.8%増となった。2位米国が13.4%減、3位日本3.4%減、だったが、最大消費量の中国で13.3%増、5位の韓国で15.5%増となった。2005年の消費量は前年比1.1%増の10,773千tであった。2位米国が13.4%減、3位日本が3.4%減となったが、最大消費国の中国が13.3%増、5位韓国が15.5%増となり、全体としては増加した。

2005年第4四半期の世界の亜鉛需給バランスは米国備蓄放出を考慮しても184千tの供給不足と供給不足量が拡大した。2005年の需給バランスは423千tの供給不足となった。LMEの在庫量は、12月30日現在393.6千tとなり、前月末から更に44千t減少している。

亜鉛の需給状況

(単位:千t、金属純分)

亜鉛	2004		2005					対前年 同期比(%) 第4四半期	前年比 (%)
	第4 四半期	2004年計	第1 四半期	第2 四半期	第3 四半期	第4 四半期	2005年計		
鉱山生産量	2,595	9,792	2,410	2,502	2,588	2,508	10,008	-3.3	2.2
地金生産量	2,794	10,359	2,524	2,597	2,555	2,644	10,319	-5.4	-0.4
米国備蓄放出	6	32	3	10	9	9	31	40.6	-4.9
消費量	2,787	10,657	2,624	2,666	2,647	2,836	10,773	1.8	1.1
需給バランス	13	(266)	(97)	(59)	(83)	(184)	(423)	-	-

出典:国際鉛亜鉛研究会資料(1月号)

(3)今後の見通し

2006年の亜鉛消費は世界全体で4.8%増加し11,190千tまで達すると予測される。中国が7.3%、インドが9.1%、日本が4.5%、韓国が4.4%と軒並み増加する見込みであり、アジア諸国の消費の伸びが最も影響力がある。米国の消費は2005年に低調だったが11.4%増加し、回復する見込みである。欧州では、フィンランド、ドイツ、ポーランド、ロシア連邦およびスペインで増加するが、ベルギー、フランスおよびイタリアで減少し、全体として1.4%増加となる見込みである。

2006年の亜鉛の鉱山生産は4.5%増加し、10,420千tまで達すると予測される。豪州の鉱山生産が8.9%増加、インドが10%増加の見込みである。ギリシア、アイルランド、ロシアおよびスウェーデンの増加受け、欧州全体の鉱山生産が8%増加する見込みである。

2006年の亜鉛地金生産は世界全体で4.3%増加し10710千tに達する予測である。主に中国が8.6%増加、インドの44%増加が影響し、豪州、ベルギー、カナダ、カザフスタン、韓国およびオランダでも増加の見込みである。

中国の亜鉛地金の総輸入は、285千tまで増加すると予測される。輸入の大部分が、カザフスタンからと推定される。

2006年の需給バランスは、米国備蓄放出を含めても437千tの供給不足となる見込みである。

関係機関の予測に基づいた推定としては、亜鉛価格は2005年の1,382US\$/tから2006年には2,619US\$/t、2007年には2,515US\$/tという推移になり、2006年の亜鉛地金生産が10,794千t、消費が11,137千tと供給不足だが、2007年には亜鉛地金生産が11,602千t、消費が11,592千tと供給過剰に転じる。

*これまで発行してきたクォーターリーレビューでは、LME 価格・在庫推移を印刷時点の直近まで掲載してきたが、需給データとの整合性の観点から、今後はLME 価格・在庫と需給データの期間をそろえて、当該四半期までとする。

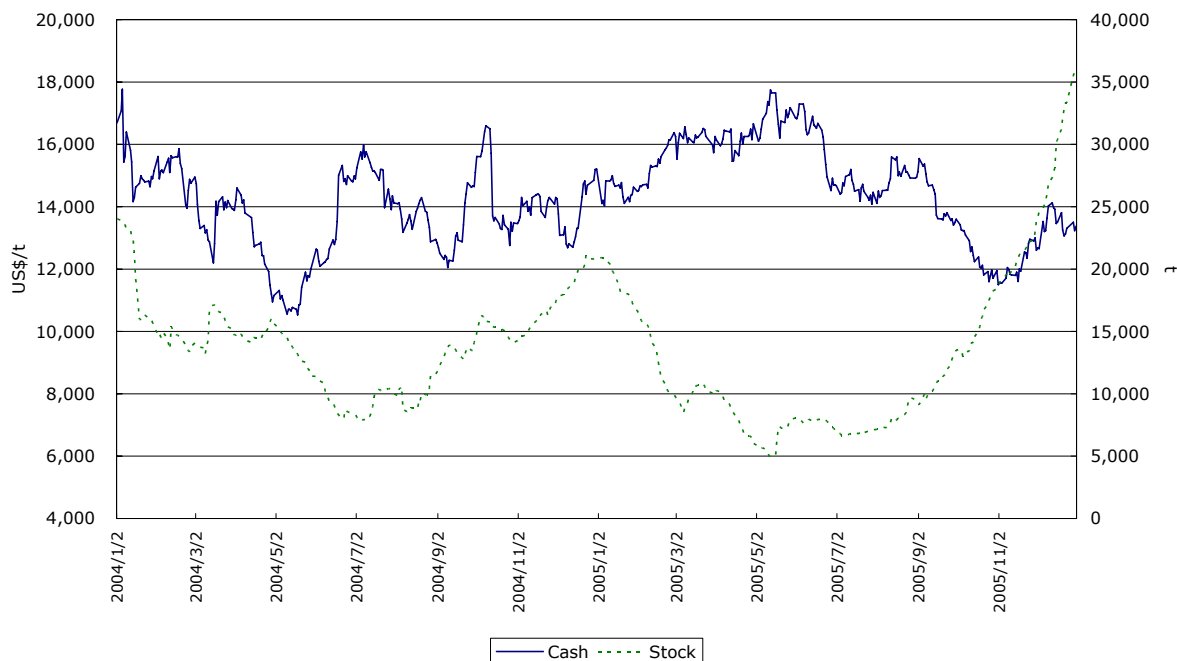
4. ニッケル

1. ニッケルの国際価格は、世界的なステンレス鋼ミルの減産などから 2005 年夏場より軟調推移し、10 月には 2004 年 5 月以来の 12,000\$ 割れへと続落したが、11 月中旬より投機資金流入などから回復、12 月中旬には 14,000\$ 台をつけた。12 月末現在 13,380\$。
2. 2005 年 10～12 月の鉱石生産は、前年同期比 5.9% の増、地金生産 0.3% の増、消費は 3.9% の減。その結果、2005 年第 4 四半期の世界の需給バランスは 16.5 千 t の供給過剰。LME 在庫量は 2005 年 8 月より増加傾向を辿り 12 月末時点で 36,042t。

(1) 国際価格

ニッケル国際価格は、2005 年 2 月後半に 16,000\$ 台をつけ、6 月中旬まで 16,000\$ 台中盤で堅調推移したが、世界的なステンレス鋼の供給過剰懸念が嫌気されたことから大幅下落し、同月下旬には 14,955\$ と 2005 年 2 月以来の 15,000\$ 割れへと続落した。その後も、欧州、韓国、国内のステンレス鋼ミルの相次ぐ減産なども影響し 14,000\$ 台が続き、7、8 月も 14,000～15,000\$ 台で推移。9 月にはインコ社の労使交渉妥結などを受け、昨年 12 月以来の 14,000 割れとなり、ステンレスメーカーの減産継続や一部投機資金の引上げなどの影響もありさらに下落し、10 月 21 日には昨年 5 月以来の 12,000\$ 割れとなった。しかし、非鉄金属全般への投機資金流入などから 11 月中旬より回復し、同月下旬には一時 13,000\$ 台をつけ、その後も上昇傾向。12 月中旬には一時 14,000\$ 台となり、一時投機資金の利食いで軟化したものの、13,000\$ 台中盤を維持し、12 月末現在 13,380\$ である。

ニッケル地金価格と在庫の推移



(2) 需給(2005年10~12月)

2005年10~12月のニッケル鉱山生産は349.6千tで、対前年比6.1%の増となった。最大生産国のロシアは2.3%増、第2位のカナダは9.6%増、第3位の豪州は4.6%増、4位インドネシアは15.1%増となり、第5位ニューカレドニアは7.2%減となった。2005年のニッケル鉱山生産は前年比4.8%増の1,369.0千tであった。5位ニューカレドニアが5.3%減だったが、最大生産国のロシアが2.1%増、2位カナダ4.3%増、3位豪州15.4%増、4位インドネシアが3.5%増となり、全体として増加した。

2005年10~12月のニッケル地金生産は324.7千tで、対前年比0.7%(1.0千t)の増となった。最大生産国ロシアは1.4%増、第2位の日本は5.8%減、第3位のカナダは8.5%減、第4位の豪州は15.2%減となったが、第5位中国の105.1%の大幅増がこれを補った。2005年のニッケル地金生産は前年比2.6%増の1,282.1千tであった。2位日本が2.4%減、3位カナダ7.8%減だったが、最大生産国のロシアが1.4%増、4位豪州が0.7%増、5位中国が30.9%と大幅増になり、全体として増加した。

2005年10~12月のニッケル地金消費は308.3千tで、前年比3.5%減となった。消費量第1位の中国は10.6%増となったが、第2位の日本は11.8%減、第3位の米国は1.5%増、韓国は7.0%減、ドイツは2.0%増となった。2005年のニッケル消費は前年比0.7%減であった。最大消費国の中国が25.7%と大幅増、3位米国が5.8%増だったが、前年度の最大消費国で2位の日本が8.5%減、4位韓国3.1%減、5位ドイツが5.3%減となり、ほぼ前年並であった。

2005年10~12月の需給バランスは、16.5千tの供給過剰となっている。2005年の需給バランスは37.5千tの供給過剰となった。

ニッケルの金属取引所在庫量は、2005年に入り減少傾向に転じ、5月中旬には5,000tを割り込み1991年以来の低水準となったが、2005年8月より増加傾向となり、9月上旬には約半年ぶりに10,000tを超え、11月中旬には2005年1月以来の20,000tを超え、12月中旬には30,000t台となり、12月末には36,042tとなった。

表1 ニッケルの需給状況 (単位:千t、金属純分)

ニッケル	2004		2005				対前年同期比(%) 第4四半期	前年比(%)	
	第4四半期	2004年計	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期			2005年計
鉱山生産量	330	1,307	334	343	342	350	1,369	6.1	4.8
地金生産量	323	1,250	325	321	311	325	1,282	0.7	2.6
消費量	320	1,253	324	319	294	308	1,245	-3.5	-0.7
需給バランス	3	-3	1	2	18	16	38	-	-

出典:国際ニッケル研究会

(3) 今後の見通し

国際ニッケル研究会によると、2005年のニッケル地金生産は前年比2.3%増の1285.1千t、ニッケル地金消費は0.9%減の1243.1千tで、需給バランスは約43千tの供給過剰との見込。

この状況は、2005年の中頃から高ニッケル・ステンレスの生産が減少し、年後半のニッケル消費が伸び悩んだことによる。2006年の初めからはステンレス・スクラップ回収率が低下しニッケル地金消費が伸びるとの予測による

2006年のニッケル地金生産は6.1%増の1363.6千t、ニッケル消費は中国等の消費拡大を見込み7.4%増の1335.7千tで、需給バランスは約28千tの供給過剰としており、2005年に続き過剰バランスながら、

需給はやや引き締まると予測している。

現在、ニッケル価格は投機筋の動きにより高値で推移している。今後はステンレス需要が次第に回復することが見込まれ、また、長らく続いた在庫の増加傾向が減少傾向へと転じていることなどから、今後のニッケル価格は、実需を伴い強含みで推移するとの見方が強い。

* これまで発行してきたクォーターレビューでは、LME 価格・在庫推移を印刷時点の直近まで掲載してきたが、需給データとの整合性の観点から、今後は LME 価格・在庫と需給データの期間をそろえて、当該四半期までとする。

II. 世界の主要生産者の動向

1. 銅企業の動向

2005年1年間の主要15社の銅鉱山生産は、合計922.1万t、前年と比べて約8.9万tの増産(前年比1.0%増)の結果となった。15社のうち、7社が増産、8社が減産となっている。2005年第4四半期だけで見ると、第4四半期の生産実績を公表した主要生産者13社の銅鉱山生産は、合計230.1万t、前年同期比約3.5万tの増産(1.6%増)となっており、また、半期ベースで生産実績を公表している2社を加えた15社の2005年下期生産実績は251.6万tとなり、前年同期比5.3万tの増産(2.1%増)、2005年上期との比較では、34.5万tの増産(15.9%増)となっている。

2005年の年間生産で最大の増産はFreeport McMoran社(米)で、同社のGrasberg鉱山が2003年10月に発生した地すべり事故で2004年の生産が低迷し、2005年はその生産が回復したことによる増産である。Freeport McMoranの2005年の生産量は、前年と比べて208,400t増(46.1%増)となった。四半期毎の生産では、2004年第4四半期以降減産傾向にあったが、2005年第4四半期は高品位と処理量増加により過去2年間で最高値を記録している。

一方、2005年の最大の減産は、Anglo American(英)で、131,400tの減産(前年比17.2%減)であった。これは、Hudson Bay鉱山の売却による74,300tの減、また、Mantos Blancos鉱山の予定された減産に伴う87,700tの減が大きく影響している。次いで、大きく減産となったのはGrupo Mexico社(メキシコ)で、74,756tの減産(前年比9.8%減)であった。これは、傘下にあったAsarco社が8月中旬以降切り離されたことが大きく影響している。

この他主要な生産者の2005年の生産動向として、世界最大の銅生産者であるCODELCO(チリ)は、僅かながら8,000tの減産(前年同期比0.4%減)であった。これは主力のCodelco Norte鉱山が18,000t減少したもののAndina鉱山他の増産により埋め合わせた結果となった。なお、Codelcoの2005年の業績は、銅やモリブデンの価格が大幅に上昇したことにより引き続き好調で、売上は104.9億US\$(前年比27.9%増)、税引前利益は49億US\$(前年同期比48.5%増)と過去最高益を記録している。

BHP-Billiton(英豪)は、128,900tの増産(前年比12.5%増)であった。これは、WMC社買収でOlympic Dam鉱山(豪)を獲得、Escondida鉱山(チリ)が高品位、ミル処理量増により四半期生産記録を更新したこと等による増産で、Cerro Colorado鉱山(チリ)の地震による減産で一部相殺されたものの、全体としては大きく増産となっている。

Phelps Dodge(米)は、35,736tの減産(前年同期比3.6%減)であった。Phelps Dodgeの第4四半期の業績は、純利益が121.3百万US\$となり、前期及び前年同期比からは大幅に減少したものの、2005年通年では、純利益1,556.4百万US\$となり、前年比で大きく48.8%の増となった。

Rio Tintoは、31,300tの増産(前年比4.2%増)であった。Grasberg鉱山は前年比128%増と回復、チリのEscondida鉱山も前年比5%増となり、Kennecott Utah Copper社のBingham Canyon鉱山はモリブデン生産最大化の影響を受けた銅減産により前年同期比6%減となったものの、Rio Tinto全体としては4.2%の増産となった。

2005年第4四半期終了時点の主要銅鉱山生産者の生産実績(精鉱中銅金属量及びSX/EWカソード生産量)は下表のとおりである。

主要銅鉱山生産者の生産実績

(単位:t、金属純分)

会社名 (本国所在地)	2004年 第3四半期	2004年 第4四半期	2005年 第1四半期	2005年 第2四半期	2005年 第3四半期	2005年 第4四半期	前年同期比 (%)
CODELCO(チリ)	476,000	541,000	414,000	399,000	449,000	570,000	5.4%
Phelps Dodge(米)	252,742	259,493	246,664	239,225	232,421	231,013	-11.0%
BHP-Billiton(英豪)	248,800	265,800	249,600	269,800	308,900	328,400	23.6%
Grupo Mexico(メキシコ)	217,312	221,894	202,535	215,539	185,804	181,318	-18.3%
Rio Tinto(英)	174,700	204,900	188,200	190,100	195,400	210,700	2.8%
Freeport McMoran(米)	116,300	192,200	152,200	137,100	156,300	214,800	11.8%
KGHM Polska(ポーランド)	142,163	139,460	130,776	133,538	147,145	148,796	6.7%
Falconbridge(加)	135,536	133,800	118,636	115,349	111,335	120,900	-9.6%
Antofagasta(英)	80,430	81,515	73,209	66,880	71,454	76,300	-6.4%
Anglo American(英)		402,100		315,600		319,000	-100.0%
Placer Dome(加)	45,813	42,356	41,277	40,823	39,462	41,398	-2.3%
Inco(加)	35,070	29,694	32,648	26,632	26,449	34,814	17.2%
Newmont(米)	55,308	40,993	30,484	39,071	50,170	28,970	-29.3%
Norilsk Nickel(ロシア)	112,000	113,000	113,000	112,000	113,000	114,000	0.9%
Xstrata(スイス)		197,309		185,562		214,589	8.8%
13社計	3,224,995	2,770,972	2,915,047	2,456,025	2,387,375	3,449,480	24.5%
15社計		2,463,414		2,170,619		2,834,998	15.1%

会社名(本社所在国)	2004年1-12月	2005年1-12月	増減産量	前年同期比(%)
CODELCO(チリ)	1,840,000	1,832,000	-8,000	-0.4%
BHP-Billiton(英豪)	1,027,800	1,156,700	128,900	12.5%
Phelps Dodge(米)	981,102	945,366	-35,736	-3.6%
Grupo Mexico(メキシコ)	764,685	689,929	-74,756	-9.8%
Rio Tinto(英)	753,100	784,400	31,300	4.2%
Anglo American(英)	766,000	634,600	-131,400	-17.2%
Freeport McMoran(米)	452,000	660,400	208,400	46.1%
KGHM Polska(ポーランド)	550,066	560,255	10,189	1.9%
Falconbridge(加)	491,600	505,300	13,700	2.8%
Norilsk Nickel(ロシア)	334,000	338,000	4,000	1.2%
Xstrata(スイス)	372,424	400,151	27,727	7.4%
Antofagasta(英)	307,200	287,900	-19,300	-6.3%
Placer Dome(加)	187,247	162,807	-24,440	-13.1%
Newmont(米)	180,308	142,944	-37,364	-20.7%
Inco(加)	124,884	120,543	-4,341	-3.5%
15社計	9,132,416	9,221,295	88,879	1.0%

2. 亜鉛企業の動向

2005年第3四半期が公表されている主要亜鉛鉱山生産者の生産実績(10社分)及び中国の生産量の合計は1,477千tとなり、前年同期比7.4%増となった。

最大生産者のTeck Cominco社の亜鉛鉱山生産量は、前年同期比5.9%増の181,020tとなった。昨年の粗鉱品位及び実収率の低下後、前期までは順調に回復していたが、前期比14.9%の減となった。主力のRed Dog鉱山(米アラスカ州)は、同7.0%増と回復したが、Antamina鉱山(ペルー)では、第4四半期に処理された鉱石タイプのため前年同期比38.0%の減となった。

第2位のZinifex社の亜鉛鉱山生産量は、前年同期比2.4%増の153,364tとなった。主力のCentury鉱山ではシリカの高い含有率を管理による影響が大きい。

第3位のFalconbridge社(旧Noranda社)の亜鉛鉱山生産量は、前年同期比25.2%減となった。2004年10月のケベック州Matagamiのベル・アラード鉱山閉山とニューブランズウィック州にあるBrunswick鉱山での鉱山道路の管理の問題と岩はねに起因する。

Vedanta社では、亜鉛鉱山生産量が前年同期比25.0%増となった。

また、CBH Resourcesは、Endeavor鉱山の第4輸送レベル(地下400m)の6Z2鉱柱採掘場付近での崩落事故による生産中止により、前年同期比73.6%減、前期比69.0%減となった。

主要亜鉛鉱山生産者の生産実績(単位:t、金属純分)

会社名(本社所在国)	2004年 第4四半期 (A)	2005年 第1四半期	2005年 第2四半期	2005年 第3四半期 (B)	2005年 第4四半期 (C)	増加率(%) C/A	増加率(%) C/B	出典
Teck Cominco(加)	148,667	160,855	161,595	181,020	154,000	3.6	-14.9	1
Zinifex(豪)	149,748	134,422	151,442	146,106	153,364	2.4	5.0	1
Falconbridge(加)(Noranda)	116,156	117,253	129,617	120,057	86,913	-25.2	-27.6	1
Vedanta(英)	89,000	98,447	114,000	106,000	125,335	40.8	18.2	1
Boliden(スウェーデン)	98,422	87,021	80,164	86,800	87,548	-11.0	0.9	1
Industrias Penoles(メキシコ)	52,200	52,500	52,800	52,000	54,000	3.4	3.8	2
Grupo Mexico(メキシコ)	34,500	34,700	37,100	37,000	34,800	0.9	-5.9	2
BHP Billiton(英・豪)	20,918	32,388	28,204	29,147	23,928	14.4	-17.9	1
CBH Resources(豪)	18,129	18,009	15,022	15,392	4,779	-73.6	-69.0	1
Rio Tinto(英)	11,700	10,000	10,400	8,100	8,700	-25.6	7.4	1
中国	627,000	520,000	632,500	695,000	652,600	4.1	-6.1	3
10社+中国の計	1,366,440	1,265,595	1,412,844	1,476,622	1,385,967	1.4	-6.1	

出典: 1)各社ホームページ、2)JOGMECメキシコ事務所調べ、3)国際鉛亜鉛研究会

3. ニッケル企業の動向

2005年第4四半期の生産実績を公表した主要4社のニッケル鉱山生産量は188千tで、このうち4社が増産、1社が減産となった。

世界最大のニッケル生産者である Norilsk の生産量は前月に引き続き 61,000tであった。世界第2位の Inco は、Clydach のWales精錬所操業停止後の再備蓄の必要及びオンタリオ州での操業再開時の生産遅延により、前期比 10.6%減、前年同期比 13.9%減となった。同社は世界第4位の Falconbridge の買収計画を発表しており動向が注目される。BHP Billiton 社は生産量を伸ばした。これは、製錬稼働時間の延長に伴う選考能力の改善によるものである。ただし、豪州・Yabulu 精錬所の補修の増加と拡張に伴う継続的な影響によって部分的に相殺されている。

主要ニッケル鉱山生産者の生産実績(単位:t)

会社名(本社所在地 国)	2004年 第4四半期	2005年 第1四半期	2005年 第2四半期	2005年 第3四半期	2005年 第4四半期	前年同期比 (%)
Falconbridge(加)	13,881	14,050	13,008	13,087	10,793	-22.2
BHP Billiton(英・豪) (WMC Resources(豪))	19,700 (31,391)	20,800 (29,216)	31,800	44,100	49,000	148.7
Inco Ltd.(加)	67,200	53,700	50,353	55,314	58,843	5.1
Norilsk Nickel(ロシア)	62,000	59,000	61,000	61,000	62,000	0
4社合計	162,955	147,550	156,161	173,501	180,636	

※各社発表による。生産量は各社とも自社シェア分。

Ⅲ. 今後の鉱山・製錬生産能力予測

国際銅研究会は、四半期ごとに改定している世界の銅鉱山・製錬一覧の2006年2月版を発表した。これは、2005年10月から2005年12月までに発表された変化を反映したものである。

2009年までに計画されている世界の銅鉱山・製錬能力 (単位:千t、金属純分)

	2004年	2005年	2006年	2007年	2008年	2009年	04/09年 増加量	04/09年 年増加率
SX-EW	2,978	(3,102) 3,094	(3,319) 3,309	(3,559) 3,632	(4,115) 4,194	(4,361) 4,503	1,525	8.6%
精鉱	12,801	(13,584) 13,484	(13,720) 13,605	(14,175) 13,975	(14,739) 14,646	(14,980) 15,063	2,262	3.3%
鉱山計	15,779	(16,686) 16,578	(17,039) 16,913	(17,734) 17,607	(18,854) 18,840	(19,341) 19,566	3,787	4.4%
溶錬	15,404	(16,147) 16,217	(16,867) 16,746	(17,103) 17,038	(17,211) 17,301	(17,366) 17,596	2,192	2.7%
電解精錬	15,576	(16,550) 16,362	(16,912) 16,809	(17,196) 17,173	(17,236) 17,372	(17,326) 17,595	2,019	2.5%
精錬計	19,308	(20,398) 20,202	(20,976) 20,865	(21,510) 21,558	(22,106) 22,321	(22,442) 22,853	3,545	3.4%

()は2005年10月発表の数字

銅鉱山生産能力は2005年10月時と比べて、2009年を除き前回に続いて全般的には下方修正となっている。前回に続いての下方修正となった。2009年における鉱山生産能力は、銅金属量で約19.6百万tで、2004年と比べて379万t(精鉱:226万t、SX-EW:153万t)増加し、2004年から2009年までの5年間で年率4.4%(精鉱:3.3%、SX-EW:8.6%)増加する見込み。

溶錬能力では、2005年10月時と比べて2005年、2008年、2009年は上方修正、2006年、2007年は下方修正された。2009年における溶錬能力は17.6百万tに達し、2004年から2009年までの5年間で溶錬生産能力は、合計で約219万t増加する見込みである。5年間全体の年率は2.7%増となり、精鉱の供給能力増加をやや下回るものとなっている。ただ、最近の低い溶錬稼働率が上がる事が予想され、追加的な精鉱生産を処理するために十分な溶錬能力はあると見込まれる。

精錬能力では、2005年7月時と比べて2005年、2006年は下方修正したものの、2007年以降は上方修正された。2009年における精錬能力は22.9百万tに達する計画で、2004年から2009年までの5年間で精錬生産能力は、約355万t増加、年率3.4%増加することが見込まれる。5年間で電気精錬は202万t、SX-EWは153万t増加し、それぞれ年2.5%増、8.6%増となる見込み。

これらの計画された能力拡張には、現存する鉱山・プラントの管理、メンテナンス、一時的生産削減等で変動する部分(Swing Capacity)は含まれていない。国際銅研究会の調査では、2005年10月時と比べて、この変動部分(能力未使用部分)は鉱山で極僅かとなり、溶錬では21.2万tから18.0万tへ減少し、精錬では37万tと変化はない。

前回の2005年10月版の一覧と比較して、2009年の生産能力が鉱山、溶錬、精錬ともに若干増加している。当初の予想よりも市況が伸び続けている中、生産者間で投資にやや楽観的な姿勢が見られているとも言えるかも知れない。

VI. 主要国、主要鉱山の生産統計

1. 主要国の鉱産物生産統計

(1)チリ

(1)-1 チリの銅生産量

(単位:t)

	2004												年計
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	
銅生産量	385,645	373,190	422,636	433,499	450,650	445,732	474,201	464,467	449,410	485,458	466,132	516,943	5,388,427
電解銅	190,766	179,525	203,178	202,748	181,765	188,859	203,534	206,640	203,822	208,661	215,316	221,030	2,404,242
精鉱	203,202	194,590	203,601	238,112	273,863	241,690	242,320	230,896	224,737	260,776	232,052	259,226	2,811,969
その他	-	2,063	15,857	1,819	2,098	15,183	28,347	26,931	20,851	16,021	18,764	36,687	172,216

	2005												年計
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	
銅生産量	431,072	365,494	446,370	406,685	454,720	411,802	420,003	474,150	434,058	455,850	476,843	552,676	5,329,723
電解銅	167,019	164,762	207,006	189,655	194,919	176,072	184,796	232,194	179,968	191,997	197,785	208,879	2,295,052
精鉱	238,042	188,426	231,303	195,995	238,538	218,710	223,679	261,649	233,286	237,534	245,161	305,314	2,817,637
その他	26,011	12,306	3,120	3,098	21,263	17,020	-	-	-	3,972	-	-	217,034

出典:チリ統計局

(1)-2 チリの銅輸出額

(単位:百万ドル)

年	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	年計
1996	479.9	512.0	524.0	512.4	585.6	537.5	579.9	415.1	427.3	479.9	469.6	505.4	6,028.6
1997	618.2	611.6	658.5	615.6	551.9	591.0	505.2	473.6	512.0	578.2	470.2	460.6	6,646.6
1998	381.8	454.7	516.0	408.9	438.6	470.3	474.1	432.1	408.0	378.8	409.0	425.1	5,197.4
1999	433.7	400.3	422.4	530.8	506.0	531.3	453.6	477.8	594.2	544.6	548.1	583.6	6,026.4
2000	577.7	527.1	711.0	437.5	723.0	545.7	678.1	691.5	552.1	701.4	545.5	594.1	7,284.7
2001	672.4	564.6	530.7	593.6	576.9	507.1	495.0	628.6	433.9	571.5	484.8	477.6	6,536.7
2002	583.7	500.0	511.8	549.5	518.4	655.5	471.5	462.9	398.9	609.3	567.6	494.1	6,323.2
2003	702.7	559.2	510.5	594.4	574.0	630.5	639.1	675.1	606.7	788.8	763.8	770.5	7,815.3
2004	835.8	897.3	1,398.6	1,224.9	1,387.6	1,007.3	1,213.1	1,384.1	1,003.1	1,472.1	1,034.7	1,624.1	14,482.7
2005	1,251.1	1,027.8	1,689.5	1,375.9	1,263.5	1,648.8	1,435.8	1,660.6	1,654.1	1,592.6	1,865.5	1,840.4	18,305.6

出典:チリ中央銀行

(1)-3 チリのモリブデン輸出額

(単位:百万ドル)

年	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	年計
1996	26.0	20.1	16.5	20.7	16.1	18.9	20.8	17.3	17.8	16.5	16.8	16.1	223.6
1997	18.7	16.0	16.8	17.1	15.5	19.8	21.7	23.2	18.0	24.0	21.6	19.7	232.1
1998	17.7	18.5	22.3	13.9	18.7	19.0	15.2	16.4	16.5	19.2	11.3	14.7	203.4
1999	17.5	11.8	17.9	12.1	14.6	10.6	16.8	11.4	13.6	14.5	14.2	12.1	167.1
2000	16.6	14.0	16.7	11.4	14.5	11.8	15.6	18.2	12.2	18.1	14.9	14.8	178.8
2001	18.1	7.6	13.5	12.9	15.2	15.9	14.6	19.4	8.8	21.0	14.1	13.5	174.6
2002	18.5	12.6	20.3	19.1	18.3	23.6	26.1	25.3	23.0	27.1	17.0	14.8	245.7
2003	26.1	15.2	24.9	26.8	21.8	24.7	23.8	23.8	33.7	47.6	45.0	39.6	353.0
2004	69.1	52.7	73.9	63.8	102.7	89.5	153.9	135.3	152.2	152.2	220.4	170.6	1,436.3
2005	221.2	191.0	311.6	310.1	274.0	354.5	353.4	255.6	218.6	270.7	273.6	238.7	3,273.0

出典:チリ中央銀行

(2)ペルー

(単位:t)

鉱産物	2004年 第4四半期	2005年 第1四半期	2005年 第2四半期	2005年 第3四半期	2005年 第4四半期	前年 同期比
銅	274,000	242,998	238,918	252,995	274,987	+0.36%
金	44.3	44.473	44.049	53.765	65.333	+47.5%
亜鉛	283,000	310,213	304,471	312,658	274,215	-3.1%
鉛	78,000	77,364	75,706	82,538	83,709	+7.3%
銀	787	783.72	772.28	795	840.94	+6.9%
錫	10,600	10,160	10,648	10,630	10,706	+1.0%
モリブデン	-	4,250	4,075	4,366	4,634	-

出典: エネルギー鉱山省

(3)ボリビア

(単位:t)

鉱産物	2005年 下半期	前年 同期比
亜鉛	82,906	+8.6%
錫	9,590	+1.9%
銀	217	+5.9%

出典: 鉱業冶金省

(4)メキシコ

鉱種	2004												年計
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	
金(kg)	2,006	1,760	2,635	2,398	2,073	2,188	2,117	1,928	1,718	1,969	1,716	1,971	24,479
銀(kg)	275,854	252,156	279,731	265,536	244,495	276,115	259,627	269,212	243,619	238,078	250,911	240,724	3,096,058
銅(t)	27,775	35,918	32,226	34,928	27,685	30,329	20,657	28,340	29,881	26,345	27,741	30,602	352,427
鉛(t)	14,285	13,735	12,540	12,191	11,235	11,458	11,980	12,017	10,077	11,770	11,404	10,449	143,141
亜鉛(t)	34,110	28,888	34,253	26,994	29,760	30,482	31,353	32,366	30,515	35,618	33,510	34,070	381,919

鉱種	2005												年計
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	
金(kg)	2,310	2,242	2,720	2,496	2,778	1,438	3,535	2,490	2,452	3,017	3,007	3,070	31,555
銀(kg)	248,333	222,463	258,497	240,033	276,334	260,129	295,779	246,458	287,509	292,969	280,245	304,715	3,213,464
銅(t)	30,014	27,107	32,034	27,992	34,763	33,035	28,002	31,943	33,288	32,007	29,322	29,035	368,542
鉛(t)	13,735	11,754	14,456	13,508	11,232	10,836	14,012	13,529	11,572	14,952	13,474	13,662	156,722
亜鉛(t)	36,395	32,251	36,151	24,649	31,555	30,404	35,406	37,396	37,237	39,801	38,947	38,164	418,356

出典: メキシコ国立統計地理情報院

(5) 中国

(単位:t)

鉱産物	2004												
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1-12月計(注)
銅精鉱(t)	44,435	38,794	50,617	50,891	52,854	63,561	56,199	56,660	52,798	55,789	61,111	60,196	692,199
銅地金(t)	165,838	124,690	168,280	168,383	183,032	178,373	182,719	171,266	177,208	175,934	193,378	177,551	2,059,599
鉛精鉱(t)	29,524	35,410	41,539	49,583	49,620	54,224	50,703	52,434	49,663	48,646	45,700	44,224	578,487
鉛地金(t)	128,833	121,434	157,489	161,985	153,647	149,349	142,012	154,173	162,637	171,362	165,241	172,687	1,845,202
亜鉛精鉱(t)	79,270	98,945	129,752	131,099	129,476	158,614	145,853	160,576	142,376	145,899	151,302	135,932	1,616,063
亜鉛地金(t)	192,057	186,643	211,659	202,009	212,674	223,545	212,368	206,009	227,931	237,321	242,962	328,542	2,689,421
ニッケル(t)	6,732	7,039	7,445	7,581	6,759	6,666	6,232	6,175	4,307	4,449	2,981	3,281	69,639

鉱産物	2005												1-12月 05/04	
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月		1-12月計(注)
銅精鉱(t)	44,150	47,580	61,227	62,369	56,516	64,110	38,792	54,124	56,538	56,231	63,070	56,896	689,522	-0.4%
銅地金(t)	173,392	184,931	186,100	193,129	222,376	212,345	205,268	203,043	217,558	226,114	247,587	251,450	2,533,204	23.0%
鉛精鉱(t)	33,292	30,995	39,479	52,961	52,015	62,833	54,106	64,581	56,072	51,761	62,520	59,943	627,101	8.4%
鉛地金(t)	148,007	144,048	166,969	192,212	190,496	207,393	187,948	203,477	217,467	229,082	225,030	220,905	2,333,868	26.5%
亜鉛精鉱(t)	102,508	102,549	132,409	129,920	143,535	171,728	153,709	199,056	162,390	167,231	194,554	173,610	1,831,490	13.3%
亜鉛地金(t)	173,001	194,343	230,070	226,822	221,701	224,392	213,085	224,912	215,625	227,964	247,126	265,783	2,671,706	-0.7%
ニッケル(t)	8,026	8,719	6,561	6,953	7,670	8,179	8,024	8,183	5,592	7,034	8,314	8,204	91,412	31.3%

(注)1-12月計は、安泰科の12月の資料を基にしているため、各月の合計とは異なる。

出典:安泰科

(6) カザフスタン

(単位:t)

鉱産物	2004年 上半期	2004年 下半期	2005年 上半期	2005年 下半期	前年 同期比
銅	218,549	228,591	210,984	207,816	-9.0%
亜鉛精鉱	174,000	185,200	172,400	184,507	-0.4%
亜鉛地金	149,301	167,214	179,984	176,923	5.8%
鉛精鉱	16,500	16,300	14,200	-	-
鉛地金	61,170	78,828	63,689	53,662	-31.9%
アルミナ	721,867	698,127	746,491	758,809	8.7%
金	4.755	5.2	4.7	5.1	-1.9%
銀	339.3	478.0	404.7	408.0	-14.6%

出典:カザフスタン国家統計庁(生産量)

2. 主要鉱山の生産統計

Grasberg 鉱山

鉱産物	2004 年 第 4 四半期	2005 年 第 1 四半期	2005 年 第 2 四半期	2005 年 第 3 四半期	2005 年 第 4 四半期
銅(t)	215,300	177,000	158,400	179,100	251,600
金(oz)	663,100	763,900	727,400	590,700	1,357,600
銅品位(%)	1.17	1.14	0.98	1.06	1.31
金品位(g/t)	1.20	1.62	1.43	1.16	2.33

(出典:Freeport McMoran HP)

Morenci 鉱山

鉱産物	2004 年 第 4 四半期	2005 年 第 1 四半期	2005 年 第 2 四半期	2005 年 第 3 四半期	2005 年 第 4 四半期
電気銅(千t)	105.4	92.1	103.0	102.1	102.8

(出典:Phelps Dodge HP)

Antamina 鉱山

鉱産物	2004 年 第 4 四半期	2005 年 第 1 四半期	2005 年 第 2 四半期	2005 年 第 3 四半期	2005 年 第 4 四半期
銅(千t)	102.7	91.9	91.8	86.6	104.3
亜鉛(千t)	24.3	59.8	54.2	55.2	15.1
銅品位(%)	1.45	1.41	1.4	1.3	1.37
亜鉛品位(%)	0.47	1.16	1.1	1.0	0.47

(出典:Teck Cominco HP)

V. その他企業の動向、主要国の生産統計

1. 豪州企業

1-1. 概要

オーストラリア鉱業は依然として好調である。鉱山会社各社の生産量増加の主な要因は、高値を続ける鉱物資源価格と中国を中心とする旺盛な需要に対応したものである。一方、豪ドル高に加え、労働者不足・材料等の価格上昇は生産コストを押し上げ好調な鉱業のマイナス要因となっている。

本稿では、下記のオーストラリア関係主要非鉄企業)の財務状況・生産状況・探鉱開発状況について下記 13 社の四半期報告等をもとに取りまとめたものである。

- 1) Alumina Limited(アルミナ)
- 2) Alcoa World Alumina and Chemicals 社(AWAC)(アルミナ)
- 3) CBH Resources Limited(亜鉛・鉛・銅)
- 4) Consolidated Minerals Limited(クロム、マンガン、ニッケル)
- 5) Energy Resources of Australia Ltd (ERA) (ウラン)
- 6) Iluka Resources Limited(ミネラルサンド)
- 7) Jubilee Mines NL 社(ニッケル)
- 8) Minara Resources Limited(ニッケル・コバルト)
- 9) Newcrest Mining Limited(金・銅)
- 10) Oxiana Limited(金・銅)
- 11) Perilya Limited(亜鉛・鉛)
- 12) Zinifex Limited(亜鉛・鉛・銅)
- 13) Lihir Gold Limited(金)

1-2. 豪州主要各社の生産・財務状況

1) Alumina Limited

(1) 財務状況

Alumina 社は、2001 年に Western Mining Co.社がアルミニウム部門とその他の部門とに分離した際にアルミニウム部門をもとに設立された。その他の部門は、WMC Resources Ltd.社となりニッケル、銅、ウランその他の事業を実施していたが、2005 年に BHP Billiton に買収された。

(単位: 百万 A\$)

	2004 通年	2005 上期	2005 下期*1	2005 通年	コメント
純利益	316.4	163.3	152.3	315.6	Alcoa of Australia 社に対する法人税支払い済み配当(Alumina 社権益相当分 320 百万豪ドル)の申告が豪州税務当局(ATO)の裁定対象となった。

Alcoa World Alumina and Chemicals (AWAC)権益分財務状況

	2004 通年	2005 上期	2005 下期	2005 通年	コメント(2005 年下半期)
税引き前収益 (AWAC 社全体)	1,080.5	636.7	616.0	1,252.7	2005 年は、AWAC 社のアルミナ・アルミニウムの販売価格の上昇を、エネルギー・原材料費コスト高、豪ドル高が相殺し、収益は昨年並み。
Alumina 社権益分 税引き前収益	432.2	254.7	246.4	501.1	
Alumina 社権益分 税引き前収益	283.5	172.2	164.9	337.1	

(2)生産状況

AWAC 社の項参照

2)Alcoa World Alumina and Chemicals (AWAC)

(1)財務状況

AWAC 社は、Alcoa 社(米国)が権益 60%、Alumina Limited 社が権益 40%を持つ JV 企業。

(単位:百万 A\$)

	2004 通年	2005 上期	2005 下期	2005 通年	コメント(2005 年下半期)
総収入	3,832.0	2,172.1	2,327.7	4,499.8	2005 年は、AWAC 社のアルミナ・アルミニウムの販売価格の上昇を、エネルギー・原材料費コスト高、豪ドル高が相殺し、昨年並み。
純利益	588.5	309.3	335.3	644.6	

(2)生産状況

鉱種	2004 通年	2005 上期	2005 下期*1	2005 通年	コメント(2005 年下半期)
アルミナ (Mt)	13.6	6.8	6.9	13.7	アルミナの生産は1%増加。2005 年第1四半期の西オーストラリア州の精錬所の操業上の問題、スリナムの生産低下、米国のハリケーンの影響などが原因。
アルミニウム (t)	385,000	N.D.	N.D.	377,000	

*1)2005 年通年(2005 年 1 月~2005 年 12 月)から 2005 年上期(2005 年 1 月~2005 年 6 月)を差引いた数字

(3)探鉱・開発状況

- ・Alumer 精錬所(ブラジル、権益 54%)の拡張(2.1 百万t/年)開始。
- ・Juruti ボーキサイト鉱山(ブラジル、権益 100%、2.6 百万t/年)の開発開始。
- ・Jamalco 精錬所(ジャマイカ)の第 1 フェーズ(1.5 百万 t/年)から 2.8 百万t/年への拡張開始。AWAC 社の権益は 50%から 77%へ増加。拡張は 2008 年に完了見込み。

3)CBH Resources Limited

(1)財務状況

(単位:千 A\$)

	2004 下期	2004/05	2005 上期*1	2005 下期	コメント(2005 年下半期)
売上	71,052	141,999	70,947	44,480	・Endevour 鉱山での事故のため、売上げ、利益とも大幅減少。 ・11 百万 A\$の損失。
税引き後利益	4,955	9,134	4,179	▲10,989	
探鉱支出	154	159	5	94	

*1)2004/05 年度通年(2004 年 7 月~2005 年 6 月)から 2004/05 年度上期(2004 年 7 月~12 月)を差引いた数字

(2)生産状況

(単位:t、金属純分)

鉱種	2005 1/4	2005 2/4	2005 3/4	2005 4/4	コメント
亜鉛(精鉱)	18,099	15,022	15,392	4,779	Endevour 鉱山での事故のため、亜鉛・鉛精鉱の生産量は約70%減少。
鉛(精鉱)	9,540	7,970	8,507	2,595	

Newcastle 積出港取扱量

鉱種	2005 1/4	2005 2/4	2005 3/4	2005 4/4	コメント
積出量	57,334	81,743	70,607	116,770	Endevour 鉱山での事故のため、生産は減少したが、積出しは他の顧客向けもあり計画を上回る。

(3)探鉱・開発状況

- ・Endevour 鉱山の鉱量獲得・鉱化作用の広がり確認。Cobar Basin でのベースメタル・金鉱化の可能性を得る。
- ・Broken Hill 地区で広範囲に及ぶ JV 鉱区を保有
- ・Panorama プロジェクトは Sulpher Springs からの銅・亜鉛鉱化の連続性を期待。Sipa 社より権益 60%を取得し探査実施。
- ・Teck Cominco 社と Napier Range 地区での鉛亜鉛鉱床探査プロジェクトを実施(権益 70%取得)

4) Consolidated Minerals Limited

(1)財務状況

- ・Jaguar 亜鉛・銅プロジェクト(西オーストラリア)のオペレーターである Jabiru Metals Ltd の権益 32.56%取得。
- ・Jaguar 亜鉛・銅プロジェクトへ A\$53.5 百万支援。
- ・旧 WMC Resources 社、旧 BHP Minerals 社から役員をむかえる。

(単位:千 A\$)

	2004 下期	2004/05	2005 上期*	2005 下期	2005 年下半期コメント
売上	85,649	284,261	198,612	103,755	・マンガン・ニッケル価格の低迷にも関わらず、Kambalda ニッケル・プロジェクトの効果もあり売上げは前年同期 21.3%増加。 ・国際会計基準導入の調整前利益は 7.4 百万 A\$。
税引き後利益	41,130	70,327	29,197	3,163	
探鉱支出	4,306	15,274	10,968	17,023	

*1)2004/05 年度通年(2004 年 7 月~2005 年 6 月)から 2004/05 年度上期(2004 年 7 月~12 月)を差引いた数字

(2)生産状況

(単位:t)

鉱種	2005 1/4	2005 2/4	2005 3/4	2005 4/4	コメント
マンガン	139,374	192,273	214,959	238,402	Woodie Woodie 鉱山拡張(6.5 百万 A\$、生産能力 100 万 t/年)は、2004/05 年度中に完了。
クロマイト	62,010	58,694	58,666	63,007	Coobina 鉱山生産継続。再評価により、露天掘を更に深くすることの可能性を得る。
ニッケル	1,085	816	976	1,440	Beta Hunt 鉱山(Kambalda)は計画を上回る鉱石生産。第 4/四半期 55,481t、2.8%Ni。

(3) 探鉱・開発状況

- ・マンガンは、Woodie Woodie 鉱山地区(西オーストラリア州)で、資源量獲得のための探鉱を実施。Greensnake 鉱床の資源量は 4.85 百万 t(Mn47.2%)。第 4/四半期の探鉱により 626,000t 増加。全体では資源量 15.2 百万 t を維持。
- ・クロムは、Coobina 地区(西オーストラリア州)の Newlands 露天掘の下部・南東部でボーリングを実施、全て着鉱。
- ・ニッケルは、East Alpha 地区(西オーストラリア州)で地表ボーリングを実施、4.3m @4.09%Ni, 1.9m @2.15%Ni, 1.1m @6.4%Ni, 2.0m @1.06%Ni, 0.75m @5.78%Ni などの結果を得る。鉱化作用は長さ 1.2km に及ぶ。
- ・East Alpha 地区は、資源量 551,000t @4.48%Ni (24,700t Ni)を Indicated に評価引上げ

5) Energy Resources of Australia Limited (ERA)

(1) 財務状況

(単位: 百万 A\$)

	2004 下期*1	2005 上期	2005 下期*2	2005 通年	2005 年通年コメント
売上	146.6	129.8	136.22	266.02	ウランのスポット価格は高騰(36.13US\$/lb)したが、同社の契約販売価格は 16US\$/lbであり、売上げに大きな影響はなかった。豪ドル高がマイナス要因。
税引き後利益	23.0	17.0	23.70	40.70	
探鉱支出	N.D.	N.D.	N.D.	2.26	

*1) 2004 年度通年(2004 年 1 月~2004 年 12 月)から 2004 年度上期(2004 年 1 月~6 月)を差引いた数字

*2) 2005 年度通年(2005 年 1 月~2005 年 12 月)から 2005 年度上期(2004 年 1 月~6 月)を差引いた数字

(2) 生産状況

鉱種	2005 1/四	2005 2/四	2005 3/四	2005 4/四	コメント
ウラン (t, U ₃ O ₈)	1,464	1,250	1,590	1,606	前年同期(1,408tU ₃ O ₈)を大きく上回る(14%増)。生産効率の改善と旺盛な需要が主な要因。
処理鉱石('000 t)	564	566	567	508	

(3) 探鉱・開発状況

- ・Ranger 鉱山露天掘りの東側隣接地区でボーリング(9,232m)を実施。
- ・探鉱予算は 3.2 百万豪ドル。2.26 百万豪ドルを支出済み。
- ・露天掘 No.3 の最大化の検討と鉱体の拡大の可能性の検討。

6) Iluka Resources Limited

(1) 財務状況

(単位: 百万 A\$)

	2005 1/四	2005 2/四	2005 3/四	2005 4/四	
売上	197.9	248.7	199.9	274.9	・2005 年の年間売上 921.0 百万 A\$は前年比 12.4%増。 ・人工ルチル、イルメナイト、ルチルの売上増とジルコンの生産価格上昇が主たる要因。
税引き後利益	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	
探鉱支出	3.9	5.3	6.1	6.3	

(2)生産状況

鉱種	2005 1/四	2005 2/四	2005 3/四	2005 4/四	コメント
ルチル (t)	40,703	46,220	46,753	40,382	Mid West、CRL、クィーンズランド州、米国で生産増加。
人工ルチル (t)	130,035	139,556	138,113	121,945	Mid West (西オーストラリア州)の生産増加。
イルメナイト (t)	409,458	421,376	416,867	380,205	
ジルコン (t)	98,918	110,583	103,146	105,584	Eneabba 鉱山 (Mid West)の低品位化を、西オーストラリア州、CRL、クィーンズランド州での生産増加が緩和するが全体では減少。
リュウコキシソ/Hyti (t)	3,962	3,249	3,434	12,116	
石炭 (t)	263,059	301,103	296,225	372,059	

(3)探鉱・開発状況

- ・Perth Basin(西オーストラリア州)では、Waroona, Tutunup South, Cataby 鉱床でボーリング(18,558m)。
- ・Murray Basin(ニューサウスウェルズ州)では、Adamson 鉱床の南鉱体にあたるEneabba 鉱床の資源量拡大と鉱量評価を継続。Copi, Magic, Jaws 深部ボーリング完了。Earl, Kulwin, Woornack Bondi East のボーリング継続(21,535m)。
- ・Eucla Basin(南オーストラリア州)では、Jacinth 及び Ambrosia 鉱床の資源量確定のためのインフィル・ボーリング(200m 間隔)を実施。広域調査として Colona JV を実施。。
- ・米国では、既存鉱床周辺でボーリングを実施(4,944m)。

7) Jubilee Mines N.L.

(1)財務状況

(単位:千 A\$)

	2005 1/四	2005 2/四	2005 3/四	2005 4/四	コメント
売上	58,516	56,911	10,640	67,672	ニッケル価格の低下が売上に悪影響。
税引き前利益*1	29,775	19,843	142	25,836	
探鉱支出	6,275	7,221	N.D.	N.D.	

*1)売上から諸費用を差引いたもの

(2)生産状況

鉱種	2005 1/四	2005 2/四	2005 3/四	2005 4/四	コメント
ニッケル精鉱 (dmt)	11,533	13,517	12,704	14,410	・Cosmos 鉱山はカット・アンド・フィル法による採掘は順調。平均品位 6.23%。予想を上回る生産量

(3)探鉱・開発状況

- ・Bannokburn ニッケル・プロジェクトで塊状硫化物ニッケル鉱床を発見。
- ・Cosmos と Prospero 鉱床の間の Anomaly 9 地区にて、鉱染状硫化ニッケルの鉱化を発見。
- ・Tapinos 鉱床のボーリング終了・評価(142,000t @7.4%Ni, 10,500tNi)。
- ・Cosmos 鉱山の Alec Mairs 下部探鉱を実施。

8) Minara Resources Limited.

(1) 財務状況

(単位: 百万 A\$)

	2004 上期	2004 下期	2005 上期	2005 下期	コメント
売上	171.6	197.9	183.9	177.5	Murrin Murrin ニッケル・コバルト鉱山での 7 月に発生した硫酸流出に伴う操業停止と再操業が影響。
営業利益	115.8	56.3	16.6	26.4	
探鉱支出	N.D.	0.99	1.08	N.D.	

(2) 生産状況

鉱種	2005 1/四	2005 2/四	2005 3/四	2005 4/四	コメント
ニッケル (t)	5,172	2,842	4,256	4,674	・定期メンテナンス(硫化鉱混合工程、ガスタービン系)を実施・完了。 ・生産は堅調。
コバルト (t)	323	141	286	301	

(3) 探鉱・開発状況

- ・Mount Windarra JV では、物理探査実施。評価結果は経済的鉱床の可能性なし。北部延長に硫化ニッケル鉱床の可能性あり。継続調査実施予定。
- ・Bardoc Nickel JV(権益 51%)では、データ評価、2 月にボーリング実施予定。
- ・Mt Margaret 地区では、物理探査結果から新たな硫化ニッケル鉱床の探査対象を得た。年内実施のボーリングサイトの修復作業。
- ・Weld Range JV 地区では、空中 TEM から 3 地点を抽出、調査実施準備。対象は硫化ニッケルと白金族金属。
- ・Irwin Hills-Coglia Well JV では、Irwin Hills 地区でのニッケル・ラテライトを対象にボーリング完了、Coglia Well ニッケル・ラテライト鉱床と同様の結果を得る。冶金試験実施予定。

9) Newcrest Mining Limited.

(1) 財務状況

(単位: 百万 A\$)

	2003/04	2004 下期	2004/05	2005 下期	コメント
売上	711.4	396.5	985.5	696.0	前年度同期 76%増加。Telfer 鉱山の生産が寄与。
税引き後利益	122.9	51.6	136.1	74.2	
探鉱支出	32.1	20.8	39.2	25.1	

(2) 生産状況

- ・Cadia Hill 鉱山(ニューサウスウェルズ州)は、露天掘の底部へのアクセス制限により採掘量減少・金品位低下。
- ・Ridgeway 鉱山(ニューサウスウェルズ州)は、採掘量は増加するが、コストも上昇。金品位は向上。銅生産・品位とも横ばい。
- ・Toguraci 鉱山(PNG)は、品位、コストともに改善。
- ・Telfer 鉱山(西オーストラリア州)は、Cadia Hillからの運搬トラックの導入などあり生産・コストともに改善。
- ・Cracow 鉱山(クィーンズランド州)は、生産量・コストともに改善。

(鉱山生産量)

鉱種	2005 1/4	2005 2/4	2005 3/4	2005 4/4	コメント
金 (oz)	319,511	339,497	337,505	430,009	品位 1.41g/t、 現金コスト 106A\$/oz、総コスト 219A\$/oz
銅 (t)	26,354	30,073	25,142	28,325	品位 0.35%

(3) 探鉱・開発状況

- ・Telfer 鉱山の黄鉄鉱プラント、坑内施設建設順調。技能労働者不足。
- ・Kencana 鉱山建設中。坑内建設は 2006 年 3 月には鉱体に達する見込み。埋蔵量は 1.3 百万 oz、資源量は 2.1 百万 oz
- ・Cadia East 鉱山は、坑道 290m を新たに掘削、総延長 710m。Cadia Hill 鉱山と合わせた露天掘について調査中。
- ・Ridgeway 鉱山は、採掘現場へのアクセスと斜坑建設中。坑道 101m 掘削。
- ・Cadia East 地区は、露天掘予定地区のボーリング結果を含め再評価中。
- ・Cracow 地区(クィーンズランド州、権益 70%)は、Kilkenny 構造の鉱化作用確認のボーリング 8 孔を実施。高品位金鉱化作用を捕捉、鉱化は走向方向に 850m、更にボーリングの必要あり。
- ・Kencana 地区は、26 孔のボーリングを実施、一部コア回収できず、再掘削の必要あり。

10) Oxiana Limited.

(1) 財務状況

(単位:千 A\$)

	2004 上期	2004 通年	2005 上期	2005 通年	コメント
売上	85,099	76,029	87,593	432,559	前年比 500%増加。金の増産、Sepon Copper 鉱山での銅生産開始、Golden Grove での亜鉛・銅・金生産開始が主たる要因。
税引き後利益	17,288	▲ 8,814	17,288	80,302	
探鉱支出	4,269	5,750	4,269	10,755	継続増額。主に Sepon での金・銅探査に支出

(2) 生産状況

鉱種	2005 1/4	2005 2/4	2005 3/4	2005 4/4	コメント
金 (oz)	56,434	54,906	38,581	59,406	Sepon Gold 鉱山は記録的生产量、現金コスト 315US\$/oz
銅 (t)	—	7,355	15,760	17,859	Sepon Copper 鉱山 12,365t, Golden Grove 鉱山 5,494t、銅は主に、タイ、ベトナム、マレーシア、台湾へ輸出
亜鉛(t)	—	—	17,554	22,214	GoldenGrove 鉱山の精鉱は、中国、韓国、タイ、インドへ輸出

(3) 探鉱・開発状況

- ・Sepon Gold 鉱山は、初生鉱処理を継続中、加圧酸化法の試験を計画。冶金試験の F/S 完了(米国)、2006 年も継続。West Nalou, Nam Kok West 地区で資源量獲得。
- ・Sepon Copper 鉱山(処理能力 1.3Mt/年)は、施設拡張の F/S 実施。冶金・選鉱試験実施、初生鉱は浮遊選鉱へ。Thengkham North 鉱床探査で資源量増加(銅量 200 万 t 以上、その他、金・銀・モリブデンを含む)

- ・Din Daeng 地区で Zn-Pb-Ag 鉱化作用(堆積岩母岩脈状)を確認
- ・Golden Grove 鉱山周辺は、新たな鉱体をターゲットに探査を実施中。
- ・Prominet Hill プロジェクト(南オーストラリア州)は、B-F/S 実施(15 百万 A\$)。環境影響調査実施中。
- ・オーストラリアでは、Minotaur 社との JV で Gawler Craton(南オーストラリア州)、Cloncurry(クィーンズランド州)などで IOGC 型鉱床を探査。
- ・ラオスでは、AngloGold 社と有望地抽出のための衛星画像・地化学・物理探査等の JV 調査を実施。その他に中国との国境地域を探査。
- ・タイでは、Thai Goldfield JV(権益 50%)により全土を対象として調査、数カ所の熱水変質帯を抽出。ボーリングを LD 地区・Wang Yai 地区で実施。
- ・中国では、四川省で Sichuan Yangtze Jiang Minerals Company を 8 月に設立、金探査を実施中。雲南省で Yunnan Jinlong Minerals JV(権益 85%)により Tangshan 地区で金探査実施。

11) Perilya Limited

(1) 財務状況

(単位: 百万 A\$)

	2003/04	2004 下期	2004/05	2005 下期	コメント
売上	194.2	84.5	198.4	123.4	2004/05 年度通年の税引き後利益は、探鉱費の評価損 13.7 百万豪ドルを計上したことにより 4.7 百万豪ドルの損益となった。
税引き後利益	12.9	0.9	▲ 4.7	16.9	
探鉱支出	N.D.	2.8	N.D.	1.7	

(2) 生産状況

(金属純分)

鉱種	2005 1/四	2005 2/四	2005 3/四	2005 4/四	コメント
亜鉛 (kt)	32	32.6	37.3	33.4	Broken Hill 鉱山は、当初 2 ヶ月は低品位鉱のため、採掘量 516 千 t であったが、含有金属量は 6% 減少して 51.7 千 t。
鉛 (kt)	16.1	18.7	18.1	18.3	亜鉛価格の上昇のため現金コストは 0.51 US\$/t に上昇(第 3 四半期 0.45 US\$/t)
銀 (Moz)	0.51	0.56	0.49	0.54	
金 (oz)	-	4,827	3,730	8,957	

(3) 探鉱・開発状況

- ・Broken Hill 鉱山 Potosi 鉱床(ニューサウスウェルズ州)のプレ F/S 調査により、4 孔のボーリングを実施、Potosi 鉱体の北部深部延長を確認。
- ・Broken Hill 鉱山 North Mine 鉱床(ニューサウスウェルズ州)のレベル 15 以下の探鉱により、資源量 4.2 百万 t・亜鉛 11.2%・鉛 13.7%・銀 214g/t を獲得。
- ・Broken Hill 鉱山 Southern 鉱床(ニューサウスウェルズ州)の地質構造・層序の詳細検討により、鉱化作用の中心を想定し、探査を集中する予定。
- ・Finders JV(南オーストラリア州)は、データ再評価により有望地区を選定、ボーリング 3,000m を実施予定。
- ・Mt.Oxide 酸化銅プロジェクト(クィーンズランド州)は、ボーリング開始、モンスーンの影響で遅延。3 月頃終了見込み。

- ・Rockhampton 亜鉛・鉛・銅・金プロジェクト(クィーンズランド州)は、地化学探査、物理探査等を実施してボーリング・ターゲットを抽出する予定。
- ・Kanowana JV(西オーストラリア州)は、JV パートナーの Placer Dome 社がボーリング 2 孔を実施。

12) Zinifex Limited

(1) 財務状況

(単位:百万 A\$)

	2003/04*1	2004 下期*2	2004/05*1	2005 下期*2	コメント
売上	486.9	924.8	1,917.4	1,133.4	前年同期比 23%増
税引き後利益	53.2	87.6	234.7	227.6	金属価格の高騰により、前年同期比 160%増

*1)2003/04 年度通年(2003 年 7 月~2004 年 6 月)、2004/05 年度通年(2004 年 7 月~2005 年 6 月)

*2)2004 下半期(2004 年 7 月~2004 年 12 月)、2005 下半期(2005 年 7 月~2005 年 12 月)

(2) 生産状況

(単位:t、金属純分)

鉱種	2005 1/四	2005 2/四	2005 3/四	2005 4/四	コメント
亜鉛(精鉱)	134,422	151,442	146,106	153,364	Rosebery 鉱山の低品位亜鉛鉱石、Century 鉱山の高シリカ含有率が生産に影響。
鉛(精鉱)	15,760	18,250	37,163	24,886	鉛精鉱生産は、前年を上回る。
亜鉛(金属)	156,047	161,241	154,341	161,343	Port Pirie 製錬所(南オーストラリア州)、Budel 製錬所(オランダ)、Clarksville 製錬所(米国)の計画的な操業停止による生産減を回復する。
鉛(金属)	64,857	62,688	54,811	66,792	
合計	371,086	393,621	392,421	406,384	

(3) 探鉱・開発状況

- ・Century 鉱山地区では、鉱脈と Century 型鉱化作用をターゲットとしたボーリングを実施予定。次の 6 ヶ月で 10,000m 予定。
- ・Rosebery 鉱山地区では、ボーリングで鉱化作用を捕捉、確認のボーリングを実施予定。次の 6 ヶ月で 18,000m 予定。
- ・Menninne Dam-JV 継続中。

13) Lihir Gold

(1) 財務状況

(単位:百万 A\$)

	2004 上期	2004 下期	2005 上期	2005 下期	コメント
売上(Revenue)	104.0	131.0	69.0	156.0	地熱発電によるコスト削減
税引き後利益	▲ 2.2	46.0	▲ 20.8	30.6	

(2) 生産状況

鉱種	2005 1/四	2005 2/四	2005 3/四	2005 4/四	コメント
金(千 oz)	101	130	193	172	10 月の地すべりを補う生産量
金品位(g/t)	4.41	4.41	7.15	8.54	高品位 Lienetz 鉱床へのアクセス

(3) 探鉱・開発状況

- ・地熱発電、浮遊選鉱の改善

2. メキシコ(Peñoles)

- ・ 2005 年通年は、売上高 19.4 億 US\$(前年比 33.8%増)、純益 155 百万 US\$(57.2%増)で、第 4 四半期も、売上高 5.7 億 US\$(前年同期比 24.3%増)、純益 51 百万 US\$(19.6%増)と、創業以来の記録。

(1)トピックス

- ・売上高増加の主な要因は、金属市況価格の高水準化、金・銀・亜鉛等の販売量増。
- ・ソノラ州ミルピージャス銅坑内掘鉱山は、2005 年 10 月試験操業開始、2006 年 1 月本格操業(銅力ソード 5.5 万 t/年)予定で、建設進捗率 95.4%(総投資額 218 百万 US\$計画)。

(2)財務状況

(単位:百万 US\$)

	2004 年 第4四半期	2005 年 第1四半期	2005 年 第2四半期	2005 年 第3四半期	2005 年 第4四半期
売上高	380.8	439.6	442.8	470.8	571.3
営業利益	50.9	57.3	47.1	46.4	87.9
当期損益	34.7	49.1	28.1	23.9	51.8
負債総額	503.7	516.5	534.5	551.4	570.0
現預金	-	168.2	107.3	84.9	97.6
純負債	-	348.3	427.2	466.5	472.4
探鉱費	10.2	10.2	12.0	13.1	13.4

(注)Penoles 社 HP より、2004 年:平均値 11.2879 へろ/US\$、2005 年第 1 四半期:11.1821 へろ/US\$、第 2 四半期:10.9823 へろ/US\$、第 3 四半期:10.7129 へろ/US\$、第 4 四半期:10.7138 へろ/US\$で換算。

(3)生産状況(主要鉱産物)

(金属純分)

	2004 年 第4四半期	2005 年 第1四半期	2005 年 第2四半期	2005 年 第3四半期	2005 年 第4四半期
金鉱石 (千 kg)	2.4	2.6	2.5	2.7	2.9
金地金 (千 kg)	5.0	7.2	7.3	8.2	9.4
銀鉱石 (千 kg)	339.6	301.7	337.5	358.5	346.5
銀地金 (千 kg)	558.4	623.4	610.9	644.0	711.4
鉛鉱石 (千 t)	13.8	14.6	15.3	15.6	16.4
鉛地金 (千 t)	31.5	36.5	33.8	34.9	37.3
亜鉛鉱石 (千 t)	52.2	52.5	52.8	52.0	54.4
亜鉛地金 (千 t)	62.5	59.6	46.7	62.0	63.5
ビスマス (t)	260	250	231	220	270

(4)輸出状況(主要鉱産物)

	2004 年 第4四半期	2005 年 第1四半期	2005 年 第2四半期	2005 年 第3四半期	2005 年 第4四半期
銀地金 (千 kg)	452.3	502.0	487.5	512.2	605.5
亜鉛地金 (千 t)	46.4	39.6	27.7	40.3	39.9
ビスマス (t)	240	220	220	200	280

(5)その他

- ・Penoles 社の製錬所は、コアウイラ州 Torreon 市内にある MET-MEX と Aleazin の 2ヶ所。

3. インドネシア(Aneka Tambang)

- ・ 2005年第4四半期の売上は前年度同期比で8.5%増、前年比12%の増収。

(1)トピックス

- ・ 2005年第4四半期の売上は9961億IDRで前年同期の9174億IDRに比べ8.6%の増収となった。これは金、銀、ボーキサイト相場の上昇、ニッケル鉱石(Saprolite)、ボーキサイト販売の増加のためである。ニッケル鉱石の販売が増加したのは、第2フェロニッケル製錬所の生産障害のためである。
- ・ 第4四半期のフェロニッケル部門の売上は生産障害を受けて3080億IDRとなり前年同期比3%の減収となった。これは実現販売価格が5.86US\$/lbと前年同期比8%下落したためである。しかし、ニッケル部門は同社売上全体の80%を占めている。
- ・ 2005年の売上累計は3兆2070億IDRで、前年の2兆8580億IDRに比べ12%の増収で、ニッケル部門は売上全体の76%、金は18%を占めた。フェロニッケルの売上は9260億IDRで前年比5%の減収となった。
- ・ フェロニッケル第2製錬所は2005年10月から生産を再開した結果、2005年第4四半期の同生産は3337tと前年同期の1534tに比べ118%増加した。しかし、2005年の同生産累計は7338tで、前年の7945tに比べ7.6%の減産となった。
- ・ 第4四半期のニッケル鉱石(Saprolite)生産は157万1484wmtで前年同期比91%増産。昨年の同生産累計は340万8252wmtで前年比8%増産した。同販売も100万6419wmtで、前年同期比33%増加し、昨年の同販売累計は303万5782wmtで前年比36%増加した。第4四半期の同販売は4195億IDRで、前年同期比39%の増収で、昨年の同売上累計は1兆3140億US\$で前年比36%の増収となった。
- ・ 第4四半期の金地金生産は558kgで前年同期比49%減産し、年初来の同生産累計は2911tで同22%減産した。この減産は、9月6日にPonkor金鉱山で崩落事故が発生、生産を中止したためである。また、第4四半期の銀生産も5150kgで前年同期比39%減産、年初来の同生産累計も2万4605kgで同11%減産した。
- ・ 第4四半期の金販売は706kgと前年同期比36%減少、金相場が14%増加したが、売上も1120億IDRと同24%減少した。
- ・ 当期のSaprolite鉱石生産は、Pomalaa, Gee, Buliの3鉱山である。Limoniteは、LGSO Pomalaa, Buliの2鉱山である。
- ・ 砂鉄鉱山を3箇所(Cilacap, Kutoarjo, Lumajang)保有する。

(2)財務状況

(単位:百万IDR)

	2005年 第4四半期	2005年 第3四半期	2005年 第2四半期	2005年 第1四半期	2005年 決算	2004年 決算
売上	996,117	902,214	714,104	599,930	3,206,683	2,858,538
輸出	937,083	792,155	574,105	518,199	2,815,860	2,513,839
フェロニッケル	307,809	290,668	144,117	182,816	925,409	970,341
ニッケル鉱石						
Saprolite	419,516	319,916	335,615	245,105	1,314,422	966,540
Limonite	69,891	53,973	33,333	30,018	187,262	221,301
金	70,020	56,532	22,585	25,171	174,308	190,329
銀	5,999	20,733	338	0	27,070	9,944
国内	59,034	110,059	139,999	81,731	390,823	344,698

(単位は百万インドネシア・IDR)

米 US\$ベース輸出高

(単位:百万 US\$)

	2005年 第4四半期	2005年 第3四半期	2005年 第2四半期	2005年 第1四半期	2005年 決算	2004年 決算
売上	94.9	78.6	60.1	55.9	289.2	278.8
フェロニッケル	30.8	28.7	15.0	19.7	94.3	28.6
ニッケル鉱石						
Saprolite	42.0	31.6	35.1	26.4	134.9	107.8
Limonite	7.9	5.5	3.5	3.2	20.2	22.6
金	7.0	5.6	2.3	2.7	17.7	21.2
銀	0.5	2.1	0	0	2.6	1.1

(3)生産状況(生産販売実績)

	2005年 第4四半期	2005年 第3四半期	2005年 第2四半期	2005年 第1四半期	2005年 決算	2004年 決算
生産						
フェロニッケル(t)	3,337	1,271	1,404	1,326	7,338	7,945
ニッケル鉱石(t)	1,538,021	895,648	749,893	897,238	4,080,800	4,095,476
Saprolite	1,571,484	652,337	598,103	586,328	3,408,252	3,152,420
Limonite	(33,463)	243,311	151,790	310,910	672,548	943,311
金(Kg)	558	757	1,033	563	2,911	3,715
銀(Kg)	5,150	6,638	8,046	4,770	24,605	27,591
販売						
フェロニッケル	2,391	1,892	939	1,366	6,588	7,897
ニッケル鉱石(WMT)	1,375,016	938,937	981,122	800,496	4,096,022	3,920,125
Saprolite(WMT)	1,006,419	660,382	779,849	588,681	3,035,782	2,546,339
Limonite(WMT)	368,597	278,555	201,273	211,815	1,060,240	1,373,786
金(Kg)	706	1,103	1,151	679	3,639	3,853
銀(Kg)	7,280	11,311	4,148	7,083	29,823	26,205
販売価格						
フェロニッケル (lb 当たり US\$)	5.86	6.88	7.27	6.56	6.50	6.23
ニッケル鉱石						
Saprolite Wett当たり US\$	41.79	47.92	45.17	44.99	44.44	42.35
Limonite Wett当たり US\$	18.81	19.82	17.46	15.16	19.06	16.47
金(oz 当たり US\$)	498.66	443.64	425.37	430.79	446.14	411.67
銀(oz 当たり US\$)	8.09	6.95	7.25	6.94	7.27	6.64

(4)その他

- 第4四半期の探鉱費は、ラテライトニッケル鉱、金、ポーキサイトを対象に前期比43%増の190億IDR (Ni-162億IDR; Au-17億IDR; ポーキサイト-11億IDR)。ラテライトニッケルの探鉱は、既存の鉱床周辺をターゲットにBuli, Halmahera,南東、Sulawesi, Obi島で展開、Buli, Halmaheraは延べ9436.4m、Sulawesi,は11,454mのコアボーリングを実施。
- 金の探鉱は、East JavaのMranggu, West Sulawesi・Karossa, Halmaheraで行い、最終報告のとりまとめを行っている。Tauro, Karossaは有望地域として開発申請を行っている。また、Bulado、

Gorontalo, Patah Tiga、MountainmJambi についてはさらに詳細な探鉱調査を行っている。

- 2004 年 9 月に生産障害で休止したフェロニッケル第 2 製錬所は平常操業を開始、2005 年 10 月から出荷を再開した。
- フェロニッケル第 3 製錬所は豪雨で溶鉱炉の内壁レンガに被害が発生したため生産を中止、2006 年 2 月から生産を再開させた。
- 2005 年 10 月に Mornopo ニッケル鉱山から Saprolite 鉱石 3 万 570t を初めて輸出した。同鉱山は昨年、埋蔵量払底で休止した Gebe 鉱山の後継で、North Maluku にあり、2005 年第 4 四半期から生産を行っている。
- 合併事業は以下のとおり。
 - －PT Cibaliung Sumber Daya (ANTAM 10.25%) : Austindo 社との金鉱開発プロジェクト、2006 年第 4 四半期から建設着工予定。
 - －PT Dairi Prima (ANTAM 20%) : Herald Resources 社と 2005 年 11 月に共同開発することに合意。資金調達完了後にインドネシア政府・エネルギー・鉱物資源省に開発申請を行う予定。
 - －PT Sorikmas Mining (ANTAM 25%) : Opra 社と 2005 年 10 月、North Sumatra・Tambang Hitam で金鉱開発を行うことで合意。同 12 月から掘削を開始。

4. 中国企業

銅地金生産企業

(単位:t)

企業名	2004												1-12月計(注)
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	
江西銅業集团公司 (Jiangxi Copper Co Ltd.)	10,132	34,759	32,971	37,657	39,757	38,976	37,515	38,021	37,104	36,436	38,995	32,723	415,051
銅陵有色金屬(集團)公司 (Tongling Nonferrous Metals Group Co., Ltd.)	26,951	29,580	31,096	28,255	31,562	31,012	30,073	31,860	32,053	32,886	32,988	29,857	371,028
雲南銅業(集團)有限公司 (Yunnan Copper Industry Group Co., Ltd.)	14,257	16,450	16,555	17,785	18,302	17,770	18,337	18,388	18,018	18,371	24,140	25,021	223,396
大冶有色金屬公司 (Daye Nonferrous Metals Co.)	12,569	8,604	9,549	9,365	12,536	12,487	13,333	13,585	13,212	14,388	14,643	14,082	148,353
金川集团有限公司 (Jinchuan Group Ltd.)	10,350	10,500	10,500	1,060	10,700	10,800	10,600	10,800	11,500	10,600	12,000	9,120	128,070

企業名	2005												1-12月計(注)	1-12月期 05/04
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月		
江西銅業集团公司 (Jiangxi Copper Co Ltd.)	33,486	38,575	35,971	40,476	38,232	39,845	34,187	38,738	41,024	39,510	37,176	34,360	451,586	8.80%
銅陵有色金屬(集團)公司 (Tongling Nonferrous Metals Group Co., Ltd.)	30,096	30,521	29,482	27,790	35,638	35,694	38,190	29,938	36,123	39,093	46,772	54,504	442,912	19.37%
雲南銅業(集團)有限公司 (Yunnan Copper Industry Group Co., Ltd.)	21,548	20,325	29,745	27,595	30,366	24,663	24,527	22,196	29,534	32,655	28,373	28,538	320,066	43.27%
大冶有色金屬公司 (Daye Nonferrous Metals Co.)	15,434	13,461	14,957	10,942	15,612	15,099	15,862	15,232	13,142	14,783	16,597	16,307	177,428	19.60%
金川集团有限公司 (Jinchuan Group Ltd.)	11,000	12,500	11,500	13,000	14,500	14,500	14,500	14,000	11,000	10,500	14,000	15,300	156,300	22.04%

(注)1-12月計は、安泰科の12月の資料を基にしているため、各月の合計とは異なる場合がある。

出典:安泰科

亜鉛地金生産企業

企業名	2004												1-12月計(注)
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	
株洲冶煉集团有限公司 (Hunan Zhuyue Torch Co. Ltd.)	42,115		28,923	25,419	23,807	26,139	27,046	42,992	28,296	29,059	27,992		301,788
葫蘆島有色金屬集团有限公司 (Huludao Nonferrous Metals Co., Ltd.)	36,687		18,795	17,376	19,784	19,867	19,507	44,826	22,506	21,591	22,192		243,131
深セン中金嶺南有色金屬株式会社 (Shenzhen Nonferrous Metals Co., Ltd.)	19,394		10,702	12,306	12,946	13,964	12,700	26,045	12,245	14,411	14,319		149,032
白銀有色金屬公司 (Baiyin Nonferrous Metals Company)	26,751		12,323	12,482	13,388	11,844	13,001	14,810	12,848	12,803	12,352		142,602

企業名	2005												1-12月計(注)	1-12月期 05/04
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月		
株洲冶煉集团有限公司 (Hunan Zhuyue Torch Co. Ltd.)	18,870	22,194	29,833	28,410	30,782	30,590	28,777	24,295	22,438	30,716	31,531	28,342	326,778	8.28%
葫蘆島有色金屬集团有限公司 (Huludao Nonferrous Metals Co., Ltd.)	19,673	19,096	20,791	20,520	20,978	20,736	21,579	22,113	19,508	19,253	19,523	21,791	245,561	1.00%
深セン中金嶺南有色金屬株式会社 (Shenzhen Nonferrous Metals Co., Ltd.)	13,059	11,615	12,709	13,417	13,222	14,482	14,092	14,588	14,819	12,832	13,177	11,579	159,591	7.09%
白銀有色金屬公司 (Baiyin Nonferrous Metals Company)	6,003	13,821	11,577	12,940	12,135	13,618	10,699	4,001	11,262	9,059	13,501	12,490	131,106	-8.06%

※1月と8月は春節他の理由でデータなし。

出典:安泰科

(注)1-12月計は、安泰科の12月の資料を基にしているため、各月の合計とは異なる場合がある。

5. カザフスタン企業

5-1 Kazakhmys

(1)トピックス

- ・銅価格の高騰により、2005年の税引前利益が848.1百万\$と、前年比で27.5%増加、売上高は20.6億\$となった。
- ・2003年10月に完成したBalkhash 亜鉛製錬所(Dynatec社(カナダ)の加圧浸出法を適用した100千t/年の湿式設備)の操業が順調に推移している

(2)生産量

	2004年 上半期	2004年 下半期	2005年 上半期	2005年 下半期	前年 同期比
銅精鉱(t)	249,500	120,118	198,700	197,900	-20.4%
銅地金(t)	218,522		210,984		-3.4%
電気銅(t)	212,090		199,700	197,900	-5.8%
銅ワイヤロッド(t)	25,960		5,900		-77.3%
亜鉛地金(t)	-	-	28,600	32,940	-
金地金(kg)	1,105		1,450		+31.2%
銀グラニュール(t)	257.6		329		+27.7%

出典: Bitimbaev レポート 2005.04、カザフスタン国家統計庁

5-2 Kazzinc

(1)トピックス

- ・12月6日に行われたKazzinc社の国家保有株22.65%を売却する入札の結果、Glencore International社(スイス)の子会社Pasar Holding社が147.4億テンゲ(約110百万USドル)で落札した。同社はKazzinc社株の99%を取得したことになった。

(2)生産量

	2004年 上半期	2004年 下半期	2005年 第1四半期	2005年 上半期	2005年 下半期
亜鉛精鉱(t)	174,000	185,200		172,400	
亜鉛地金(t)	149,301	167,214	70,980	179,984	107,214
鉛精鉱(t)	16,500	16,300		14,200	
鉛地金(t)	61,170	95,830		63,689	24,907
銅精鉱(t)			16,300		
粗銅(t)			956,500		
鉛(t)			23,800		(88,596)
金(kg)			1,590		(5,300)
銀(t)			31.2		(172.9)

()内は情報未入手のため年間生産量

出典: Bitimbaev レポート 2005.04、カザフスタン国家統計庁

IV. 主要企業の 2005 年第 4 四半期動向レビュー

1. CODELCO

- ・ 2005 年の売上は前年比 27.9%増の 104.91 億ドル、税引前利益は 48%増の 49.01 億ドル、純利益は 60.0%増の 17.8 億ドルを記録した。いずれも過去最高額である。
- ・ 銅生産量は、前年比 0.5%減の 1,832 千 t となった。CODELCO Norte デイビジョンでは 18 千 t の減、Andina デイビジョンでは 8 千 t の増、El Teniente デイビジョンでは 2 千 t の増となった。CODELCO Norte の減産要因は品位、実収率の低下と SAG ミルの故障によるものである。キャッシュコストはモリブデンクレジット効果により前年の 31.7 ¢ /lb から 11.6 ¢ /lb に大幅に低下した。

(1)トピックス

- ・ ブラジル Carajas 地域で銅鉱床発見 (10 月)
- ・ 地熱発電会社及び鉱山技術サービス会社を売却 (11 月)
- ・ 経営審議会が中国 Minmetals との契約を承認 (12 月)
- ・ Chuquicamata 鉱山坑内採掘切替のための初期資金計画を承認 (12 月)
- ・ CODELCO 下請け会社従業員がストライキ実施、生産には影響なし (12 月)

(2)財務状況

(単位:百万ドル)

	2004 年 第 4 四半期	2005 年 第 1 四半期	2005 年 第 2 四半期	2005 年 第 3 四半期	2005 年 第 4 四半期
売上高	2,211	2,255	2,497	2,611	3,128
営業利益	1,007	1,149	1,303	1,101	1,704
当期損益	319	389	412	387	592

(3)生産状況

1)主要鉱産物生産状況

公表データなし

2)主要保有鉱山の生産状況

(単位:千t、金属純分)

デイビジョン名	2004 年 第 4 四半期	2005 年 第 1 四半期	2005 年 第 2 四半期	2005 年 第 3 四半期	2005 年 第 4 四半期
CODELCO Norte (100%)	305	186	208	247	324
Salvador (100%)	21	15	19	21	23
Andina (100%)	62	62	62	58	66
El Teniente (100%)	127	97	114	98	129
El Abra (49%)	26	26	25	24	28
キャッシュコスト (¢/lb)	31.7	-8.1	-1.7	6.0	11.6

注 1) 2005 年第 2 四半期以降のキャッシュコストは累積平均値

注 2) 山元キャッシュコスト(C1 コスト)がマイナスになっているのは、モリブデンクレジット効果により銅生産コストが大幅に低減されたことによるもので、見掛け上の計算値をそのまま標記しているもの。

2. Phelps Dodge

- 2005年第4四半期純利益は121.3百万ドルと、前年同期比の35.6%の大幅減。

(1) トピックス

- 11月2日、コンゴ民主共和国でTenke・Fungurume銅コバルト鉱山で子会社のTenke Mining Corp.を通じて、開発オプションを行使し、銅鉱山での権益は、Phelps Dodge社57.75%、Tenke Mining社24.75%、コンゴ鉱山公社Gecamines 17.5%となった。
- 第4四半期のキャッシュフローは、470.4百万ドルと前年同期の596.2百万ドルを下回った。
- 銅生産量は、86.8千tと前期より落ち込み前年同期比20.9%減、銅地金生産は前年同期比5.9%増。

(2) 財務状況

(単位:百万ドル)

	2004年 第4四半期	2005年 第1四半期	2005年 第2四半期	2005年 第3四半期	2005年 第4四半期
売上高	1,821.0	2,066.5	2,151.6	2,359.8	2,255.6
営業利益	432.4	549.0	173.7	567.9	504.0
当期損益	344.5	386.7	682.3	366.1	171.3
探鉱費	16.3	18.8	26.7	27.1	49.1

(3) 生産状況

1) 主要鉱産物の生産状況

鉱産物	2004年 第4四半期	2005年 第1四半期	2005年 第2四半期	2005年 第3四半期	2005年 第4四半期
銅鉱石(千t)	109.7	106.3	93.5	93.7	86.8
銅地金(千t)(SX-EW)	168.3	164.7	169.3	162.6	178.2
モリブデン鉱石(千ポンド)	14.1	14.7	16.7	16.4	14.5

※権益比率分のみ

2) 主要保有鉱山、精錬所の生産状況

(単位:千t、金属純分)

鉱山名、製錬所名	2004年 第4四半期	2005年 第1四半期	2005年 第2四半期	2005年 第3四半期	2005年 第4四半期
Morenci(EW)	80.8	71.0	79.4	78.7	79.7
Bagdad(Conc)	19.6	23.1	21.1	18.9	13.8
Bagdad(EW)	5.9	2.2	3.4	4.1	3.7
Sierrita(Conc)	16.6	17.7	16.3	15.2	13.8
Sierrita(EW)	2.3	1.8	1.7	1.7	1.5
Miami/Bisbee(EW)	2.4	2.4	3.1	2.9	2.8
Chino/Cobre(Conc)	13.5	13.0	9.6	11.2	12.2
Chino/Cobre(EW)	12.6	13.1	12.8	12.1	11.2
Tohono(EW)	-	0.5	0.6	0.5	0.5
Tyrone(EW)	9.3	9.4	9.9	8.7	8.7
Candelaria(Conc)※	49.3	42.6	37.7	39.7	36.9
Cerro Verde(EW)	21.4	71.0	79.4	78.7	24.0
El Abra(EW)※	29.6	23.1	21.1	18.9	28.9

※ short tonをトン換算。権益比率分のみ

3. BHP Billiton (WMC 含む)

- ・拡張計画のコスト高、技能労働者不足、設備・機材の不足、諸材料費の高騰により、需要に対応した生産を得られていない。
- ・鉄鉱石は前四半期比4%増の24.6百万t、非鉄金属は、WMC社買収の効果が現われ、アルミニウムが3%増344千t、銅鉱石が9.7%増の221,400t、銅地金が67%増の107,000t、ニッケルが11%増の49,000tを記録した。
- ・一方、燃料炭、ダイヤモンド、石油は生産減少となっている。

(1) トピックス

- ・Escondida鉱山(チリ)の硫酸リーチングプラントは、2006年第2四半期中には生産開始予定(銅カソード180,000t/年、投資額870百万米ドル)。Spenceプロジェクト(チリ)は、2006年第4四半期中には生産開始予定(露天掘り、銅カソード200,000t/年、投資額970百万米ドル)

(2) 財務状況

単位:百万US\$	2003年7月～ 2004年6月 (12ヶ月)	2004年6月～ 2004年12月 (6ヶ月)	2004年7月～ 2005年6月 (12ヶ月)	2005年6月～ 2005年12月 (6ヶ月)
売上高	23,513	15,207	31,107	18,172
営業利益	3,403	2,953	6,009	4,364
探鉱費	454	199	533	348

(3) 生産状況

1) 主要鉱産物の生産状況

(金属純分)

鉱産物	2004年 第4四半期	2005年 第1四半期	2005年 第2四半期	2005年 第3四半期	2005年 第4四半期
銅鉱石(千t)	201.8	186.0	199.2	213.8	221.4
銅地金(千t)	64.0	63.6	70.6	95.1	107.0
鉛鉱石(t)	71,509	80,899	64,652	64,873	77,187
亜鉛鉱石(t)	20,918	32,388	28,204	29,147	23,928
ニッケル地金(千t)	19.7	20.8	31.8	44.1	49.0
モリブデン鉱石(t)	560	431	492	573	772
金(ounce)	31,247	32,152	31,882	53,666	54,700
銀(千ounce)	12,353	14,044	11,881	11,362	13,866
マンガン鉱石(千t)	1,361	1,297	1,418	1,387	1,278
マンガン合金(千t)	207	197	156	139	165
フェロクロム(千t)	271	240	178	-	-
アルミナ(千t)	1,036	1,092	1,054	1,028	1,012
アルミニウム(千t)	338	332	321	334	344
鉄鉱石(千t)	24,916	23,988	25,296	23,601	24,610
原料炭(千t)	9,629	8,938	9,570	8,986	8,973
一般炭(千t)	21,389	20,079	22,703	24,010	21,287
石油等(百万boe)	29.38	28.49	33.13	31.38	27.93
ウラン(U ₃ O ₈ t)	-	-	415	1,088	1,070

2) 主要保有鉱山、製錬所の生産状況

鉱山名、製錬所名	2004年 第4四半期	2005年 第1四半期	2005年 第2四半期	2005年 第3四半期	2005年 第4四半期
Escondida 鉱山(銅千t)	146.3	135.4	154	168.6	169.0
Antamina 鉱山(銅千t)	33.4	29.9	29.9	27.9	34.3
Tintaya 鉱山(銅千t)	22.1	20.7	15.3	17.3	18.1
Escondida(銅カソード千t)	22.2	21.8	21.4	19.6	20.0
Cerro Colorado(銅カソード千t)	30.4	29.8	24.6	14.5	21.5
Tintaya(銅カソード千t)	9.1	9.6	6.4	9.7	9.9
Pinto Valley(銅カソード千t)	2.3	2.4	2.1	2.2	2.1
Olympic Dam 鉱山(銅カソード千t)	-	-	16.1	49.1	53.5
Cannington 鉱山(鉛t)	71,509	80,899	64,652	64,873	77,187
Cannington 鉱山(亜鉛t)	13,956	15,241	12,676	14,188	18,780
Antamina 鉱山(亜鉛t)	6,962	17,147	15,528	14,959	5,148
Escondida 鉱山(金oz)	24,475	25,987	20,774	19,194	19,200
Tintaya 鉱山(金oz)	6,772	6,165	4,066	8,048	8,200
Olympic Dam 鉱山(金oz)	-	-	7,042	26,424	27,300
Escondida 鉱山(銀千oz)	639	650	658	795	945
Antamina 鉱山(銀千oz)	503	830	749	642	859
Tintaya 鉱山(銀千oz)	186	181	129	167	168
Cannington 鉱山(銀千oz)	11,025	12,383	10,283	9,579	11,672
Olympic Dam 鉱山(銀千oz)	-	-	62	179	222
CMSA(ニッケル 千t)	12.4	13.3	13.7	12.8	13.0
Yabulu 鉱山(ニッケル 千t)	7.3	7.5	8.9	6.1	5.9
Nickel West(ニッケル 千t)	N.D.	N.D.	9.2	25.2	30.1
Antamina 鉱山(モリブデン t)	560	431	492	573	772
Olympic Dam 鉱山(U ₃ O ₈ t)	-	-	415	1,088	1,070
Mt. Newman JV (鉄鉱石千t)	6,611	6,475	6,493	6,234	6,166
Yandi JV (鉄鉱石千t)	9,238	8,713	8,943	8,409	8,372

4. Grupo Mexico

- ・ 2005 年通年は、米アサルコ社の米破産法申請(8 月 9 日)で産銅量減少も、金属市況高水準化で、売上高 51.9 億 US\$(04 年比 23.5%増)、利益 10.7 億 US\$(同 37.0%増)と創業以来の記録。
- ・ 第 4 四半期も、売上高 13.9 億 US\$(同 5.5%増)、利益 3.1 億 US\$(同 8.6%増)と記録更新。

(1)トピックス

- ・ 2005 年第 4 四半期の純益は 307.3 百万 US\$(前年同期比 8.6%増)を記録し、2005 年通年の純益も 1,072 百万 US\$(同 37.0%増)と創業以来の大幅増益を記録。
- ・ 11 月 25 日、鉄道部門子会社 ITM 社を通じて、グルーポ・カルソ(G-Carso)及びシンカ(Sinca)社の保有する Ferrosur 社(メキシコ市南東部の総延長約 2,093km 鉄道利権)100%権益を、ITM 社権益 25%(32.6 億 Peso:約 3 億 US\$)で買収し、メキシコ鉄道輸送 54%を占有。
- ・ 12 月 5 日、メキシコ・コアウイラ州北部で採掘する石炭を利用し、自社供給用の石炭火力発電所発電能力 450MW の建設計画に 6 億 US\$の投資を発表。2008 年完工を目指す。
- ・ 投資額は、第 4 四半期が前年同期比 31%増の 225 百万 US\$、2005 年通年が前年比 48%増の 667 百万 US\$。主な投資先は、ペルーIlo 銅製錬所、各鉱山・選鉱場、鉄道部門。
- ・ サンプルスポトシ亜鉛製錬所は、2006 年 1 月 6 日、電気過負荷による配電系統の火災により、操業停止。5 月末に 50%まで操業回復、第 3 四半期末 100%の復旧見込み。

(2)財務状況

(単位:百万 US\$)

	2004 年 第4四半期	2005 年 第1四半期	2005 年 第2四半期	2005 年 第3四半期	2005 年 第4四半期
売上高	1,315.0	1,246.1	1,303.5	1,255.7	1,387.7
営業利益	573.5	530.8	511.8	586.1	656.5
当期損益	282.8	250.6	261.0	275.6	307.3
負債総額	2,516.9	2,283.0	2,001.1	1,774.5	1,724.9
現預金	973.6	949.4	614.8	995.6	1,261.0
純負債	1,543.4	1,333.6	1,359.3	778.9	463.9
全投資(含探鉱)	172.6	135.6	125.6	181.1	225.2

(3)生産状況(主要鉱産物)

(単位:t, kg)

	2004 年 第4四半期	2005 年 第1四半期	2005 年 第2四半期	2005 年 第3四半期	2005 年 第4四半期
銅 (千 t)	221.9	202.5	215.5	185.8	181.3
銀 (千 kg)	150.5	148.0	153.2	141.7	149.1
金 (kg)	244	246	258	264	241
モリブデン (千 t)	4.45	4.02	3.59	3.84	3.35
亜鉛 (千 t)	34.5	34.7	37.1	37.0	34.8
鉛 (千 t)	4.3	4.8	5.0	4.9	5.0

(4)その他

- ・ GM 社の製錬所は、Minera Mexico 社(MM)社3、Southern Copper Co. (SCC)社の計5ヶ所。
- ・ GFM 社(鉄道部門子会社)の純益は、前期 24 百万 US\$、当期 35 百万 US\$と安定収益確保。

(参考)GM 社の組織(()内は GM 社権益比率)

鉱業部門 AMC 社(100%) - SCC 社(75.1%) - MM 社(0.85%)
 └ ASARCO 社(100%)【米破産法申請中】
 鉄道部門 ITM 社(75%) - GFM 社(100%) - FERROMEX 社(74%)
 └ FERROSUR(100%)

(注) SCC 社は、SPCC(Southern Peru Copper Co.)から社名変更(2005/10/11)。ペルー、メキシコ、チリで活動中。

5. Rio Tinto

- 2005 年下半期の売上高は、11,303US\$と前年同期比 54.2%増、営業利益は 265%増、当期損益は 253%と大幅増。

(1)トピックス

- 銅鉱石生産量は、前年同期比 2.8%増の 210.7 千t。Grasberg 鉱山では前年同期比で銅 1.6 倍、金 7.1 倍、前期比で銅 1.6 倍、金 2.0 倍の増産。定修後のミルのスループット改善によるもの。
- 2005 年の探鉱費は、2004 年と比較して約 60 百万 US\$ 増加。
- 世界最大の生産量を誇る Kimberley 地方の Argyle ダイヤモンド鉱山を拡張することとした。
- 12 月 16 日、Granja 銅鉱床の入札に Rio Tinto 社一社が応札し落札。

(2)財務状況

(単位:百万 US\$)

	2004 年 下半期	2005 年 第 1 四半期	2005 年 上半期	2005 年 第 3 四半期	2005 年 下半期
売上高	7,330		9,439		11,303
営業利益	1,687		3,221		4,477
当期損益	1,202		2,165		3,050
探鉱費	61	30	63	75	82

※売上高、営業利益、当期損益は、半期毎の発表

(3)生産状況

1) 主要鉱産物の生産状況

(単位:千t、金属純分)

鉱産物	2004 年 第 4 四半期	2005 年 第 1 四半期	2005 年 第 2 四半期	2005 年 第 3 四半期	2005 年 第 4 四半期
銅鉱石(千 t)	204.9	188.2	190.1	195.4	210.7
銅地金(千 t)	81.1	77.8	62.0	89.2	85.7
モリブデン鉱石(千 t)	2.8	3.9	3.3	3.9	4.6

※権益比率分のみ

2) 主要保有鉱山、製錬所の生産状況

(単位:千t、金属純分)

鉱山名、製錬所名	2004 年 第 4 四半期	2005 年 第 1 四半期	2005 年 第 2 四半期	2005 年 第 3 四半期	2004 年 第 4 四半期
Bingham Canyon(精鉱)	73.9	62.1	56.7	50.2	51.6
Escondida(精鉱)	91.8	84.9	94.1	101.7	100.4
Grasberg (JV)	24.0	25.7	22.0	23.6	38.2
Northparks(精鉱)	7.4	8.6	9.5	11.8	13.3
Palabora(精鉱)	7.9	6.9	7.7	8.2	7.2
Kennecott Utah Copper (銅地金)	61.6	57.2	41.5	68.1	65.1
Escondida(銅地金)	11.6	11.4	11.2	10.2	10.4
Palabora(銅地金)	8.0	9.2	9.3	10.8	9.9

※ 権益比率分のみ

6. Freeport-McMoRan Copper

- 2005年第4四半期は、銅・金相場の高騰や増産を受けて収益が激増。

(1)トピックス

- 第4四半期決算は4億6320万US\$の黒字で、前年同期の2億1250万US\$に比べ2.2倍の大幅増益となった。インドネシアグラスベルグ銅山の地すべり事故が復旧して生産が正常化したことで増産を実施、銅、金の販売の大幅増加で収益が激増した。
- 第4四半期の売上は14億8980万US\$で、前年同期の9億2470万US\$に比べ61%の増収で、2005年の売上累計は41億7910万US\$となり、前年の23億7180万US\$に比べ76%増加した。
- 第4四半期銅販売は4億6840万lbで前年同期の4億1920万lbに比べ11.7%増加し、金は110万ozで、同61万8000ozに比べ1.8倍の大幅増加となった。この結果、2005年の銅販売累計は14億6000万lbで、前年の10億lbに比べ46%増加、金は280万ozで、同144万ozに比べほぼ倍増した。
- 第4四半期の銅平均相場は2.02US\$/lbで前年同期の1.43US\$/lbに比べ41%上昇、金平均相場も494.01US\$/ozで同432.57US\$/ozに比べ14%上昇した。2005年の平均銅相場はlb当たり1.85US\$/lbで、前年の同1.37US\$/lbに比べ35%上昇、金は456.27US\$/ozに比べ10.6%上昇した。
- 第4四半期の平均銅品位は1.31%で、前年同期の1.17%に比べ上昇、2005年の平均品位も1.13%で、前年の0.87%に比べ上昇した。第4四半期の銅回収率は91.1%で、前年同期の90.7%を上回った。2005年の平均回収率も89.2%で、前年の88.6%を小幅上回った。
- 第4四半期の平均金品位は2.33g/tで、前年同期の1.20g/t、2005年の平均品位は1.65g/tで、前年の0.88g/tに比べほぼ2倍に上昇した。第4四半期の金回収率も84.0%で、2004年同期の82.3%を小幅上回り、2005年の平均回収率は83.1%で、前年の81.8%を上回った。2006年の銅・金鉱石生産は、生産区画の変更にもない減産する見込みである。
- 第4四半期の粗鉱処理量は23万6900t/日で、前年同期の22万9800t/日に比べ3.0%増産した。2006年は平均22万t/日を生産する計画である。
- PT-Freeport Indonesia(PT-FI)のDeep Ore Zone(DOZ)の鉱石生産は、4万1800t/日で粗鉱処理量の約18%を占め、生産能力3万5000t/日を上回る操業を継続した。2007年までに二次碎鉱機と坑内ベンチレーションを改善し粗鉱生産能力を5万t/日に強化する方針。

(2)財務状況

(単位:千US\$)

	2004年 第4四半期	2005年 第1四半期	2005年 第2四半期	2005年 第3四半期	2005年 第4四半期
売上高	924,791	803,065	902,909	983,270	1,489,874
営業利益	466,862	357,599	430,443	459,551	929,693
純利益	212,505	130,395	175,247	165,805	463,180
探鉱費	1,687	1,920	2,342	2,159	2,382

(3)生産状況

1)主要鉱産物の生産状況

(金属純分)

鉱産物	2004年 第4四半期	2005年 第1四半期	2005年 第2四半期	2005年 第3四半期	2005年 第4四半期
銅鉱石(千t)	192.2	152.2	137.1	179.1	214.8
金(t)	17.8	17.3	16.8	13.4	316.6
銅地金(千t)	74.0	76.0	76.0	79.1	78.9

2) 主要保有鉱山、製錬所の生産状況

(単位:千t)

鉱山名、製錬所名	2004年 第4四半期	2005年 第1四半期	2005年 第2四半期	2005年 第3四半期	2005年 第4四半期
Grasberg 鉱山(90.6%) (PT フリーポート社)	192.2	152.2	137.1	156.3	214.8
Huelva 精錬所(100%) (アトランティック・カッパー社)	57.7	59.7	62.5	62.7	62.4
Gresik 製錬所(25%) (PT スメルティング社)	16.3	16.3	16.6	16.4	16.5

注)生産量は権益分

(4) その他

- ・ 2006年の販売量は、銅が13億lbで、2005年の14億lbに比べ7%減産、金も170万ozで、銅190万ozに比べ10.5%減産する見込みである。この減産は2007年に補充する方針。
- ・ 2006-2010年の平均年銅販売は13億lb、金は190万ozを見込んでいる。
- ・ 2006年第1四半期の銅生産は2億4000万lb、金は34万ozを予定しており、年間販売計画量の58%以上を下半期に販売する見込みである。
- ・ 2006年はDeep Grasberg、Kucing Liar 鉱床、Deep Ore Zone、Ertsberg Stockwork Zone 北西部、過去に開発したErtsberg 鉱床下部などで探鉱を集中実施の予定。
- ・ また、一時中断していた既存Grasberg 鉱山の外側でも探鉱を実施する方針である。

2005年決算

	2005年 第4四半期	2005年 第3四半期	2005年 第2四半期	2005年 第1四半期	2005年 決算	2004年 決算
売上	1,489.8	983.2	902.9	803.1	4,179.1	2,371.8
PT-FI	1,522.1	811.1	751.5	760.5	4,012.1	1,980.3
銅	966.4	593.3	480.0	500.4	2,707.0	1,363.5
金	544.4	210.3	264.0	250.9	1,269.8	595.2
銀	11.2	7.4	7.4	9.1	35.1	21.5
探鉱支出	2.3	2.1	2.3	1.9	8.8	8,664
粗利益	1,053.30	469.9	413.3	444.0	2,380.6	804.4
銅	698.1	366.6	268.5	298.0	1,614.4	559.0
金	347.9	104.6	140.8	140.8	750.3	238.1
銀	7.1	(1.2)	3.9	5.1	15.8	7.2
営業利益	929.6	459.5	430.4	357.6	2,177.2	703.5
純利益	478.3	165.8	175.2	130.4	995.1	202.2
EPS	2.19	0.86	0.91	0.70	4.67	0.85
PT-FI						
銅生産	473.5	344.5	302.3	335.6	1,455.9	996.5
銅販売	468.4	346.3	313.7	328.1	1,456.5	991.6
平均実現販売価格(lb 当たりUS\$)	2.02	1.73	1.53	1.51	1.85	1.37
金生産	1,116.6	472.1	591.3	609.4	2,789.4	1,456.2
金販売	1,103.5	475	616.4	595.3	2,790.2	1,443.0
平均実現販売価格(oz 当たりUS\$)	494.01	445.79	428.23	426.74	456.27	412.32

※単位は百万US\$、()は赤字、生産出荷は銅が百万lb、金・銀は千oz

7. KGHM

- 2005年第4四半期の売上高は、対ユーロ PLN(現地通貨ズオティ)高、銅・銀価格高により、前年同期比 54.1%増となり、純利益は 2.59 倍の増。銅生産量は前年同期とほぼ同レベル。

(1)トピックス

- 2005年第4四半期の売上高は、PLN ベースで前年同期比 37.8%増。対ユーロ平均為替レートは 4.0233PLN/ユーロで、前年同期比 11.0%の PLN 高。
- 2005年第4四半期の純利益は、PLN ベースで前期より 4.5%減、前年同期比の 3.83 倍
- 銅生産量は、前期比 1.1%と微増、前年同期比 6.6%増。
- 現在実施中のコンゴ民主共和国における Kimpe 鉱山での湿式製錬所の建設に伴う投資額が、当初の 23,690 千 US\$から 21,200 千 US\$に減額となる見込み

(2)財務状況

(単位:千 PLN)

	2004年 第4四半期	2005年 第1四半期	2005年 第2四半期	2005年 第3四半期	2005年 第4四半期
売上高 Net Revenues	1,570,619	1,671,459	1,849,713	2,038,642	2,420,649
営業利益 Operating profit	214,845	497,009	510,156	716,087	862,371
純利益 Net profit	172,288	523,016	495,566	691,021	659,652
探鉱費	-	-	-	-	-

(1PLN=0.3095US\$ 2005年12月27日現在)

(3)生産状況

1) 主要鉱産物の生産状況

(金属純分)

鉱産物	2004年 第4四半期	2005年 第1四半期	2005年 第2四半期	2005年 第3四半期	2005年 第4四半期
銅地金(t)	139,460	130,778	133,538	147,145	148,796
銀(kg)	368,318	303,903	296,604	312,433	312,433

8. Falconbridge(Noranda を含む)

- 2005 年第 4 四半期の利益は昨年同期 143 百万 US\$からほぼ倍増し、280 百万 US\$に。

(1)トピックス

- 2005 年の年間利益は前年の 521 百万 US\$から 872 百万 US\$に増加。
- 引き続き価格の高騰(とくに亜鉛の価格高騰)に加え、銅・ニッケルの販売量の増加、モリブデンの売り上げの増加、銅精錬の改善などにより、第 4 四半期の売り上げは前年同期を 16%上回り 2165 百万 US\$に増加。
- 36 百万 US\$かけて行われた Collahuasi 鉱山のモリブデン回収ラインの工事は今期終了。2006 年には約 3800t のモリブデン精鉱の生産が見込まれる。
- Kidd Creek 鉱山Dプロジェクトの第2ブロックの銅生産が今期から開始。第3ブロックは 2006 年第 3 期に開始予定。
- 2005 年 10 月、Kidd Creek 鉱山で鉱山協約をめぐり 1 ヶ月のスト(話し合い後、組合は新たな 3 年契約に同意署名)。このストと亜鉛の低品位化の影響から、同鉱山の亜鉛地金と鉱石の生産が減少。

(注) Inco による Falconbridge 社の買収に関し、アメリカとヨーロッパの独禁法規制当局が調査検討を行うため、2 月 28 日のオファー期限を 6 月 30 日まで延長することになった。

(2)財務状況

(単位:百万 USドル)

	2004 年 第 4 四半期	2005 年 第 1 四半期	2005 年 第 2 四半期	2005 年 第 3 四半期	2005 年 第 4 四半期
売上高	1867	1976	2124	2006	2165
営業利益*	369	455	464	434	463
当期損益	143	176	202	214	280
探鉱費**	14	12	15	16	16

*売上高からコスト、原価償却分を差引した値。営業費、一般管理費、R&D、探鉱費等はコストに含まれない。**調査、開発、探鉱費を含む

(3)生産状況

1) 主要鉱産物の生産状況

(単位:千t、金属純分)

鉱産物	2004 年 第 4 四半期	2005 年 第 1 四半期	2005 年 第 2 四半期	2005 年 第 3 四半期	2005 年 第 4 四半期
銅鉱石	133	119	115	111	117
銅地金	143	122	125	148	131
ニッケル鉱石	14	14	13	13	11
ニッケル地金	28	28	29	29	28
亜鉛鉱石	116	117	130	120	87
亜鉛地金	34	38	36	32	9

注) 主要鉱産物の合計

2) 主要保有鉱山、製錬所の生産状況

(単位:千t、金属純分)

鉱山名、製錬所名	2004 年 第 4 四半期	2005 年 第 1 四半期	2005 年 第 2 四半期	2005 年 第 3 四半期	2005 年 第 4 四半期
Collahuasi 銅鉱山(44%)	58	47	43	44	48
CCR 銅精錬所	79	67	67	81	89
Sudbury 鉱山(Ni)	6	4	6	4	4
Nikkelverk 製錬所(Ni)	20	21	21	21	21
Brunswick 鉱山(亜鉛)	68	67	72	67	59
Kidd Creek 精錬所(亜鉛)	34	38	36	32	9

注) 生産量の最も多い鉱山・精錬所の主要鉱産物を記載

9. Antofagasta

- ・ 2005年の売上は前年比25.9%増の24.45億\$、税引前利益は28.2%増の15.36億\$、税引後利益は28.4%増の12.28億\$を記録。いずれも過去最高額。
- ・ 2005年の銅生産量は前年比6.2%減の467,300t、モリブデン生産量は前年同期比10.9%増の8,700t。
- ・ グループの銅のキャッシュコストはモリブデンクレジット効果で過去最低の13.9¢/lb、Los Pelambresのキャッシュコストは-17.1¢/lbを記録。

(1) トピックス

- ・ Los Pelambres 鉱山の銅生産量は前年比7.9%減の322,800tとなった。この主な要因は品位の低下(0.88%→0.80%)によるもの。
- ・ モリブデンクレジットは、モリブデン価格高騰により91.8¢/lbとなった。
- ・ モリブデンクレジットを除くキャッシュコストは、2004年より21¢/lb高い74.7¢/lbとなった。

(2) 財務状況

(単位:百万\$)

	2004年 下期	2005年 上期	2005年 下期
売上高	1,188.7	1,123.6	1,321.7
営業利益	776.5	739.0	797.3
当期損益	620.4	607.5	620.7

(3) 生産状況

1) 主要鉱産物の生産状況

(単位:千t、金属純分)

鉱産物	2004年 第4四半期	2005年 第1四半期	2005年 第2四半期	2005年 第3四半期	2005年 第4四半期
銅鉱石	132.2	118.9	108.5	116.0	123.9
モリブデン鉱石	2.1	2.2	2.5	2.0	2.0
キャッシュコスト (¢/lb)	11.6	-7.9	-9.6	31.2	39.1

2) 主要保有鉱山の生産状況

(単位:千t)

鉱山名	2004年 第4四半期	2005年 第1四半期	2005年 第2四半期	2005年 第3四半期	2005年 第4四半期
Los Pelambres (60%)	92.1	80.6	74.4	81.0	86.9
El Tesoro (61%)	26.3	26.3	23.6	24.0	24.3
Michilla (74.2%)	13.8	12.0	10.6	11.1	12.7

注1)生産量は銅金属純分

注2) Los Pelambres 鉱山は硫化精鉱のみ、El Tesoro 鉱山及び Michilla 鉱山はカソードのみを生産

注3) モリブデン生産は Los Pelambres 鉱山のみ

10. Anglo American

- ・ベースメタル部門の営業利益は、銅・ニッケル・亜鉛価格の上昇を背景として、前年同期比 35.1% 増の 957 百万\$。2004 年 12 月に Hudson Bay 鉱山(カナダ)を売却した影響で、銅・亜鉛生産量は減少した。

(1)トピックス

- ・2005 年の下半期は、売上高が前年同期比 4.1%増、営業利益が前年同期比 43.4%増、当期利益が前年同期比 32.0%増
- ・コスト削減による費用効果は、427 百万\$費用効果(2005 年前期は、303 百万)。
- ・Anglo American Chile 社が同社が 100%権益を有する Mantos Blancos 鉱山を鉱量枯渇のため 2009 年に閉山すると発表
- ・チリコジャワシ鉱山のモリブデン製錬所を 9 月に操業開始

(2)財務状況

(百万 US\$)

	2004 年 上期	2004 年 下半期	2005 年 上半期	2005 年 下半期
売上高	15,229	16,639	17,145	17,327
営業利益	2,325	2,372	2,975	3,401
当期利益	2,226	1,275	1,838	1,683
探鉱費(総額)	56	64	67	83
金	(19)	(24)	(22)	(23)
ベースメタル	(18)	(23)	(20)	(30)
白金族	(11)	(2)	(9)	(33)

(3)生産状況

主要鉱産物の生産状況

(金属純分)

鉱産物	2004 年 上期	2004 年 下半期	2005 年 上半期	2005 年 下半期
銅鉱石(t)	363,900	402,100	315,600	319,000
ニッケル(t)	11,700	12,300	12,600	13,900
亜鉛(t)	203,200	207,500	153,800	170,400
鉛(t)	26,300	28,400	29,800	33,200
金(oz)	2,932,000	3,327,000	3,138,000	3,028,000
白金(oz)	1,182,700	1,315,500	1,291,400	1,210,600
パラジウム(oz)	634,900	696,900	731,700	645,000
ロジウム(oz)	109,300	149,300	175,700	157,800

注)金生産量は、AngloGold 社分。2004 年は、Gold Fields 社分を含む。

(4)その他

2005 年下半期の収益比率は、ベースメタル部門が 28.1%、鉄鉱石・合金鉄部門が 28.1%、ダイヤモンド部門が 8.4%、石炭部門が 19.0%、白金族部門が 13.0%など。

11. Placer Dome

- ・ Barrick Gold 社との合併準備費用がかかり、2005 年第 4 四半期の利益は前年同期の 39 百万 US\$から 44%下がり、22 百万 US\$に。

(1)トピックス

- ・ 12 月 22 日、Barrick Gold 社が買収額を 92 億 US\$から 104 億 US\$に引き上げたことで、Placer Dome 社は合併に合意。(注:2 月 3 日、Barrick Gold 社は Placer Dome 社株を 94% 所有、3 月 15 日残りをすべて獲得し買収は完了。合併に向け準備中。)
- ・ 今期金生産量は 92 万 oz。
- ・ 今期のカナダ国内の金生産量は 13 万 oz で目標生産量に達したものの、カナダ\$高、低品位鉱物の生産、消耗品価格高騰などで平均コストは 359\$/oz とコストパフォーマンスは悪かった。
- ・ ネバダの Bald Mountain 鉱山の埋蔵量の増加を 11 月発表。確定・推定鉱物埋蔵量は 340 万オンスで、2004 年の埋蔵量の 3.6 倍に。

(2)財務状況

(単位:百万 US\$)

	2004 年 第 4 四半期	2005 年 第 1 四半期	2005 年 第 2 四半期	2005 年 第 3 四半期	2005 年 第 4 四半期
売上高	460	491	460	488	539
営業利益*	78	104	78	109	152
当期損益	39	31	-7	34	22
探鉱費	25	18	23	24	26

*売上高からコスト、原価償却分を差引した値。営業費、一般管理費、R&D、探鉱費等はコストに含まれない。

(3)生産状況

1) 主要鉱産物の生産状況

鉱産物	2004 年 第 4 四半期	2005 年 第 1 四半期	2005 年 第 2 四半期	2005 年 第 3 四半期	2005 年 第 4 四半期
金(万 oz)	92.7	91.1	91.6	90.1	91.9
銅(千t)	42	41	41	39	41

注)主要鉱産物の合計

2) 主要保有鉱山、製錬所の生産状況

(金属純分)

鉱山名、製錬所名	2004 年 第 4 四半期	2005 年 第 1 四半期	2005 年 第 2 四半期	2005 年 第 3 四半期	2005 年 第 4 四半期
Porgera(Au)(万 oz)	20.4	18.6	16.6	16.3	12.5
Cortez(Au)(万 oz)	13.0	13.2	16.4	13.4	11.1
Zaldivar(Cu)(千t)	34	33	30	28	32

注)生産量の最も多い鉱山の主要鉱産物を記載

12. Inco

- ・ 2005年第4四半期の利益は235百万US\$で前年同期比226百万\$をわずかに上回る。

(1)トピックス

- ・ 10月11日Inco社はFalconbridge社の買収計画案を発表。当該二社合併が成功した場合、ニッケル生産高世界第1位、銅生産高世界第8位のメジャー企業に。
- ・ Voisey's Bay プロジェクトの次の段階として、10月20日、ニューファンドランド州 Argentia でハイドロメット精錬技術の検証を行うデモ工場が稼動開始。今後 Voisey's Bay で採掘されるニッケル精鉱を精錬していく予定。
- ・ 11月16日、予定より6ヶ月早くVoisey's Bay からニッケル精鉱が初出荷された。ニッケル精鉱は Sudbury に 運ばれ、2006年第1四半期には初めてのニッケルが生産される予定。
- ・ Voisey's Bay の順調な立ち上げを受け、同鉱山の2006年のニッケル精鉱生産量を1.2億lbに引き上げる予定。
- ・ ニューカレドニア・Goro プロジェクトの建設工事は順調に進んでおり、約70%が終了。約900名の建設要員で処理工場と残留物貯蔵庫の土木工事も開始。

(注) Falconbridge 社の買収に関し、アメリカとヨーロッパの独禁法規制当局が検討調査を行うため、2月28日のオファー期限を6月30日まで延長。

(2)財務状況

(単位:百万US\$)

	2004年 第4四半期	2005年 第1四半期	2005年 第2四半期	2005年 第3四半期	2005年 第4四半期
売上高	1161	1122	1196	1071	1121
営業利益*	448	458	516	321	324
当期損益	226	313	215	62	235
探鉱費	13	9	11	10	13

*売上高からコスト、原価償却分を差引した値。営業費、一般管理費、R&D、探鉱費等はコストに含まれない。

(3)生産状況

主要鉱産物の生産状況

鉱産物	2004年 第4四半期	2005年 第1四半期	2005年 第2四半期	2005年 第3四半期	2005年 第4四半期
ニッケル(千t)	55.5	55.9	50.5	55.3	58.8
銅(千t、出荷量)	32.6	26.6	26.4	26.4	34.8
コバルト(t、出荷量)	456	381	440	440	417
PGM(千oz、出荷量)	108	132	57	57	118

注) 鉱種別インコ社生産量を示す。

13. Newmont Mining

- 2005年第4四半期の純利益は62百万US\$に留まった。

(1) トピックス

- 第4四半期の金販売量は1.8百万ozで、生産コストは230\$/ozであった。
- Batu Hijau 鉱山は選鉱設備の不調により、前年同期に比して22%減産。
- 2005年を通じて、金販売は8.6百万ozで、平均金価格は441\$/oz、生産コストは236\$/ozであった。

(2) 財務状況

(単位:千US\$)

	2004年 第4四半期	2005年 第1四半期	2005年 第2四半期	2005年 第3四半期	2005年 第4四半期
売上高 Revenues	1,198,000	961,000	1,006,000	1,164,000	1,305,000
営業利益 Operating income	587,000	188,000	136,000	437,000	489,000
純利益 Net income	190,000	84,000	50,000	126,000	62,000
探鉱費	52,000	45,000	53,000	59,000	69,000

(3) 生産状況

1) 主要鉱産物の生産状況

(金属純分)

鉱産物	2004年 第4四半期	2005年 第1四半期	2005年 第2四半期	2005年 第3四半期	2005年 第4四半期
金(千oz)	1,797.9	1,551	1,537	2,164	1,799
銅鉱石(t)	47,291	30,485	36,935	50,170	30,844
亜鉛鉱石(t)	5,996	13,624	NA	—	—

2) 主要保有鉱山、製錬所の生産状況

(単位:千oz、t)

鉱山名、製錬所名	2004年 第4四半期	2005年 第1四半期	2005年 第2四半期	2005年 第3四半期	2005年 第4四半期
Nevada(100%)	668.2	557.5	569.4	554.2	606.2
Yanacocha(51.35%)	436.0	396.9	370.9	395.1	545.8
Batu Hijau(45%)	39,372	24,733	36,935	50,170	30,844

注)生産量は権益分

(4) その他

- 第4四半期の探鉱予算は69百万US\$で前年同期比33%増となった。内訳は、グラスルーツ探鉱に43百万US\$(前年同期比39%増)、事業化調査及び開発に26百万US\$(前年同期比24%増)であった。

14. Teck Cominco

- 銅、亜鉛、石炭の価格の高騰を受け、2005年第4四半期の利益は510百万US\$となり、昨年同期の285百万\$の約1.8倍に増大。

(1)トピックス

- 第4四半期のロンドン金属取引所の平均キャッシュ価格は1ポンドあたり、銅1.95\$、亜鉛0.74\$で、前年同期より、それぞれ39%と45%上がっており、これが今期の利益の大幅な上昇の要因になっている。
- アラスカのPogo鉱山の工事は2005年末で事実上完了。2006年第2四半期には営業生産量まで生産を増加していく見込み。
- 2005年11月、アルバータ州のFort Hillオイルサンドプロジェクトの権益15%取得に合意。現在設計に取り掛かっており、コスト概算見積もりは2006年末に出される予定。
- Abacus Mining & Exploration社がBC州Afton鉱山地域の処理工場、テーリング貯蔵庫、工事機具などをTeck社から購入した対価として、Teck社はAbacus社株18.2%(850万株)を取得。

(2)財務状況

(単位:百万US\$)

	2004年 第4四半期	2005年 第1四半期	2005年 第2四半期	2005年 第3四半期	2005年 第4四半期
売上高	1051	928	994	1150	1343
営業利益*	392	329	417	560	700
当期損益	285	205	225	405	510
探鉱費	14	5	14	31	20

*売上高からコスト、原価償却分を差引した値。営業費、一般管理費、R&D、探鉱費等はコストに含まれない。

(3)生産状況

1) 主要鉱産物の生産状況

(金属純分)

鉱産物	2004年 第4四半期	2005年 第1四半期	2005年 第2四半期	2005年 第3四半期	2005年 第4四半期
銅鉱石(千t)	71	61	63	67	72
亜鉛鉱石(千t)	149	161	162	180	154
亜鉛地金(千t)	79	71	72	13	67
鉛地金(千t)	25	21	21	5	22
モリブデン(千ポンド)	3234	2599	2354	2118	2411
石炭(千t)	2467	2527	2673	2356	2392

注)主要鉱産物の合計

2) 主要保有鉱山、製錬所の生産規模

鉱山名、製錬所名	2004年 第4四半期	2005年 第1四半期	2005年 第2四半期	2005年 第3四半期	2005年 第4四半期
Red Dog 鉱山(Zn)(千t)	132	136	135	155	142
Highland Valley (Cu)(千t)	46	38	41	47	49
Highland Valley (Mo)(千ポンド)	2,404	2,016	1,631	1,276	1,277
Elk Valley Coal Partnership (Coal)(千t)	2,467	2,527	2,673	2,356	2,392

注)生産量の最も多い鉱山・精錬所の主要鉱産物を記載

平成 17 年度情報収集事業報告書 第 17 号

クォーターリー・レビュー

—非鉄メジャーの 2005 年第 4 四半期動向—

平成 18 年 6 月 発行

発行： 独立行政法人 石油天然ガス・金属鉱物資源機構

金属資源開発調査企画グループ

〒 2 1 2 - 8 5 5 4 神奈川県川崎市幸区大宮町 1310 番

電 話 : 044-520-8590

FAX:044-520-8750

E-mail:mric@jogmec.go.jp

http://www.jogmec.go.jp/mric_web/

印刷： 株式会社 サンワ

〒102-0072 東京都千代田区飯田橋 2-11-8

電話： 03-3265-1816 (代)
